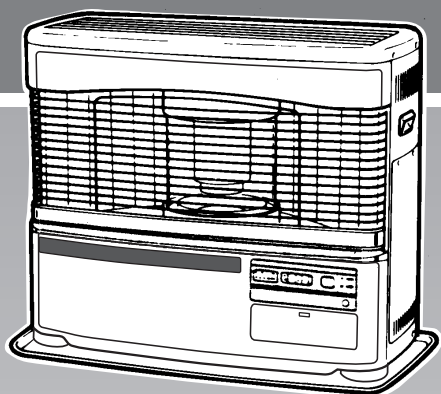
CORONA

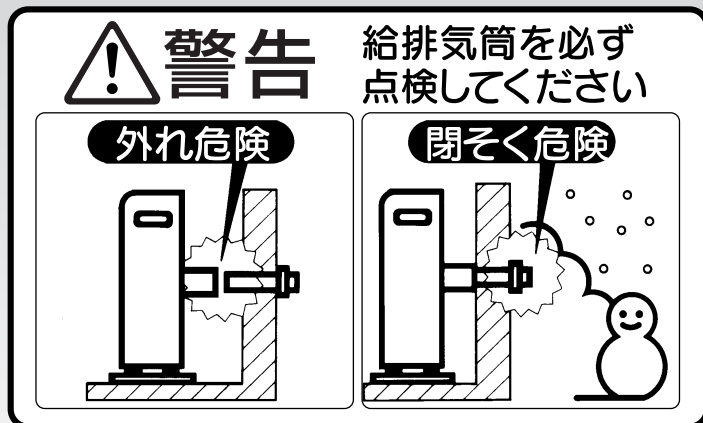
コロナ密閉式石油ストーブ

取扱説明書

お客様へ

本製品は消費生活用製品安全法（消安法）で指定される特定保守製品です。
法定点検を受けるために所有者登録を行ってください。
（製品に同梱した「所有者票」に記入し投函願います。）

正しく使って上手に節約

このたびは、コロナ石油ストーブをお買いあげいただき、まことにありがとうございました。
正しくお使いいただくために、この取扱説明書をよくお読みください。
なお、お読みになった後もお使いになる方がいつでも見られる所に「保証書」と共に大切に保管してください。

もくじ

この取扱説明書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

警　告　この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡、重傷を負う可能性、または火災の可能性が想定される内容を示しています。

注　意　この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性や物的損害の発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例

△記号は注意を促す内容があることを告げるものです。
図の中に具体的な注意内容（左図の場合は一般的な注意）が描かれています。

⃠記号は禁止の行為であることを告げるものです。
図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合はガソリン禁止）が描かれています。

●記号は行為を指示する内容を告げるものです。
図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜いてください）が描かれています。

⚠警告（WARNING）

●ガソリン厳禁
ガソリンなど揮発性の高い油は、絶対に使用しないでください。
火災の原因になります。

●衣類の乾燥厳禁
衣類などの乾燥には使用しないでください。
衣類が落下して火がつき、火災の原因になります。

●スプレー缶厳禁
スプレー缶やカセットこんろ用ボンベなどを温風のあたるところに放置しないでください。
熱で缶の圧力が上がり、爆発して危険です。

●温風吹出口をふさがない
衣類、紙などで温風吹出口や空気取入口をふさがないでください。
衣類、紙などでふさぐと、火災の原因になります。

●給排気筒（管、ホース）外れ危険
給排気筒（管、ホース）が外れたまま使用しないでください。
外れていると運転中に排ガスが室内に漏れて、危険です。

●低温やけどに注意 (UH-F7011PR)
長時間皮膚の同じ場所に触れないでください。
比較的低い温度でも低温やけどや脱水症状の原因となります。

●給排気筒トップ閉そく危険
給排気筒トップの周りが雪でふさがれたままで使用しないでください。
ふさがれているときは、除雪してください。
また、板などによる「雪囲い」は給排気の妨げになるのでおやめください。
閉そくしていると運転中に排ガスが室内に漏れて、危険です。

●給排気筒トップには金網などは付けない
給排気筒トップには、虫よけのための金網などは付けないでください。
給排気の妨げになり、異常燃焼を起こし排ガスが室内に漏れる可能性があり危険です。

●定期点検の実施
定期的（2年に1回程度）に点検・整備を受けてください。点検を受けずに長期間使用し続けると、故障や事故の原因になり危険です。点検・整備はお買い求めの販売店や資格者のいる店に依頼してください。

●ご自身での据付け・移設工事の厳禁
お客さまご自身による工事は危険です。据付け工事は販売店や専門業者にご依頼ください。
（ストーブを移設させる場合も同じです。）

1.特に注意していただきたいこと（安全のために必ずお守りください）

⚠注意（CAUTION）

●カーテン、寝具など可燃物近接禁止
カーテン・布団や毛布など燃えやすいもののそばなどで使用しないでください。
火災が発生するおそれがあります。
可燃物との離隔距離については３２ページを参照してください。

●給油時消火
火災のおそれがありますので、給油は、必ず消火し、火の気のないところで行ってください

●油漏れ確認
油タンク・ゴム製送油管・接合部・給油コックおよび機器などからの灯油漏れがないことを確認の上ご使用ください。灯油が漏れていると火災のおそれがあります。

●異常時使用禁止
万一異常を感じたときは、使用しないでください。
異常燃焼のおそれがあります。

●温風に直接あたらない
温風に直接長時間あたらないでください。
低温やけどや脱水症状になるおそれがあります。

●高温部接触禁止
燃焼中や消火直後は、高温部（枠上部、前面ガードなど）、排気筒（給排気筒トップ）に手などふれないでください。やけどのおそれがあります。

●やかんのせ禁止
やかんなどをのせないでください。
振動や接触によってやかんの熱湯がこぼれ、やけどのおそれがあります。

●分解修理の禁止
故障、破損したら、使用しないでください。
不完全な修理は、危険です。

●腰をかけたり物をのせない
機器の上にのったり、腰をかけたりしないでください。機器の故障や、やけどのおそれがあります。
機器の上に花びんや水を入れたものなどを置かないでください。水がかかると漏電や故障のおそれがあります。

●改造使用の禁止
改造して使用しないでください。また、ストーブや給排気筒には床暖房用の熱交換器などを取り付けないでください。火災や排ガスが室内に漏れる原因となり危険です。

●電源コードを傷めない
電源コードに無理な力を加えたり、物をのせたりしないでください。
また、電源プラグを抜くときは、コードを持って引き抜かないでください。
火災や感電の原因になります。

●電源プラグは確実に差し込む
電源プラグはコンセントに根元まで確実に差し込んでください。
また、傷んだプラグやゆるんだコンセントは使用しないでください。火災の原因になります。ぬれた手での抜き差しはしないでください。感電の原因になります。

●特殊用途には使用しない
食品・精密機器・美術品の保存や、動植物の飼育・栽培などには使用しないでください。

⚠注意（CAUTION）

●長期間使用しないときは電源プラグを抜く
長期間使用しないときまたは保管するときは、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。
火災や予想しない事故の原因になります。

●電源プラグのお手入れをする
ときどきは電源プラグを抜き、ほこり及び金属物を除去してください。
ほこりがたまると湿気などで絶縁不良になり火災の原因になります。

●灯油の保管
灯油は、火気、雨水、ごみ、高温および直射日光を避けた場所に保管してください。
ガソリンなどと一緒に保管しないでください。
誤って使用すると異常燃焼や火災のおそれがあります。

●変質灯油禁止
変質灯油、不純灯油（汚れた灯油、水の混じっている灯油など）を使用しないでください。
異常燃焼のおそれがあります。

●シスターンの水位に注意 （UH-F7011PR）
循環水は少しずつ蒸発します。
１ヶ月に１回程度は、シスターンタンクの水位が規定水位にあること を確認し、不足している場合は補充液を補給してください。
上限水位以上は、入れないよう注意してください。
（床暖パネルを接続しない場合は、循環水は不要です。）

●カーペットのはがれに注意 （UH-F7011PR）
カーペットがずれたりめくれたまま使用しないでください。
床パネルに直接触れるとやけどのおそれがあります。

●循環液（循環水・不凍液）の保管に注意 （UH-F7011PR）
幼児の手の届かない所に保管してください。
万一飲んだ場合には吐かせて、医師の診断を受けてください。

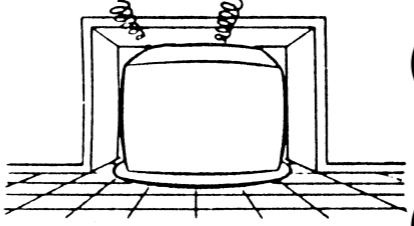
●給排気筒付近の可燃物近接禁止
給排気筒トップの近くに、灯油や可燃物など引火のおそれのあるもの を置かないでください。火災のおそれがあります。

●指や異物を入れない
温風吹出口や空気取入れ口の中に、指や異物を入れないでください。
けがや火災の原因になります。

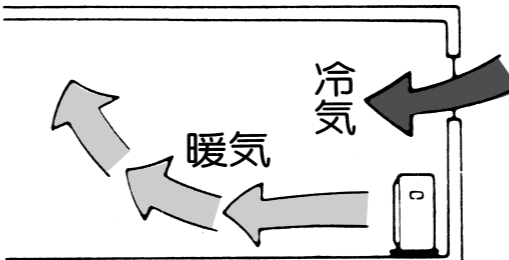
●初めてお使いになるときの注意
初めてお使いになるときは、耐熱塗料などが焼き付くまで煙と臭いが出ます。
しばらくの間、窓をあけて部屋の換気をおこなってください。
また、小鳥や小動物などに影響する場合が考えられますので、この間は部屋に入れないでください。

●外出する時は消火
外出するときは、必ず運転を停止し消火してください。

●可燃物との距離を離す
可燃物との離隔距離については標準据付け例（32ページ）を参照してください。

1.特に注意していただきたいこと（安全のために必ずお守りください）

お願い（NOTICE）

●機器を廃棄するときの注意
ストーブを廃棄処分するときは、必ず定油面器の灯油を抜き取ってください。（２３ページ）
灯油を入ったまま廃棄するとリサイクルの際に思わぬ事故になるおそれがあります。

●灯油の廃棄
灯油の廃棄処分は、灯油をお買い求めになった販売店にご相談ください。

2.使用する場所

ストーブを安全に使用するためには、場所の選定が大切です。

安全に使用するために

- ●マントルピースなどには据付けないでください。
- ●標高が 1000 mを超える高地では使用しないでください。
（空気の濃度が薄いため、燃焼に必要な空気が不足します。）
- ●クリーニング店、美容院などの化学薬品を使用する場所では使用しないでください。化学薬品などの影響により、異常燃焼や故障の原因になります。
- ●温室、飼育室など、動植物の育成栽培に使用しないでください。

効果的に使用するために

●冷気の入ってくる方向、例えば窓側などに置くと、冷気がストーブで暖められて対流しますので、効果的です。

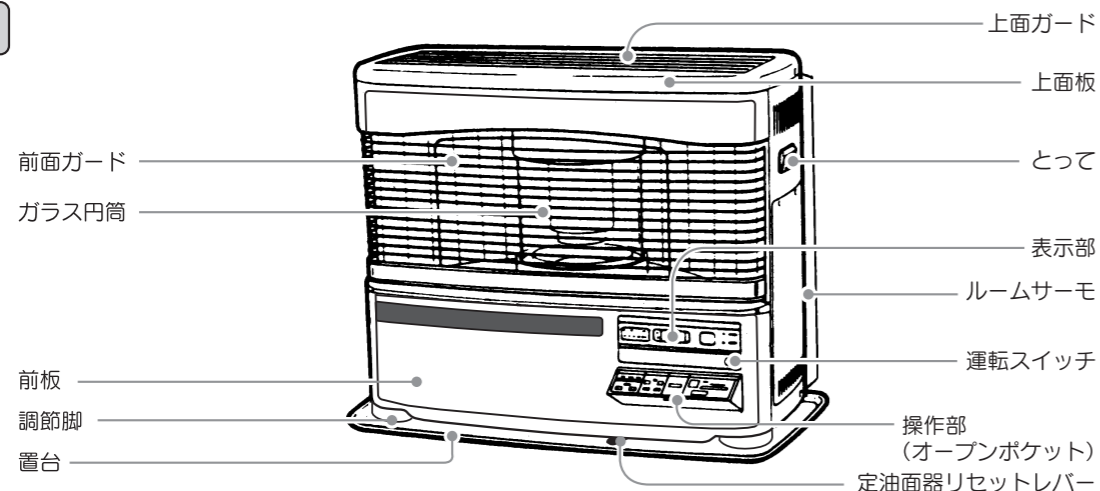
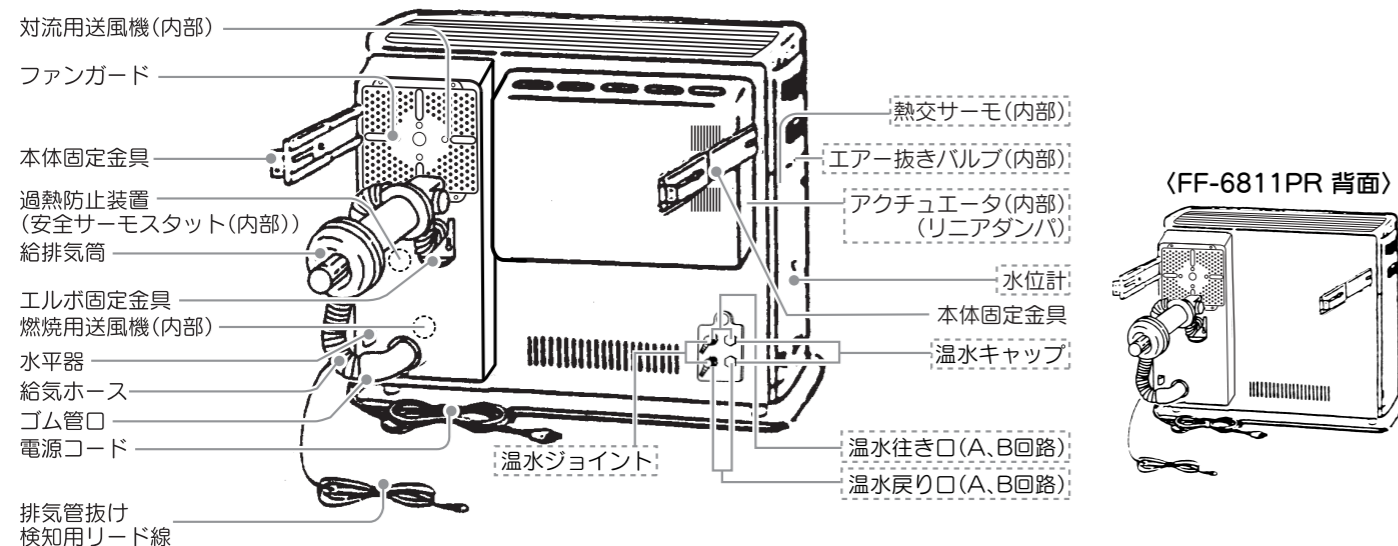
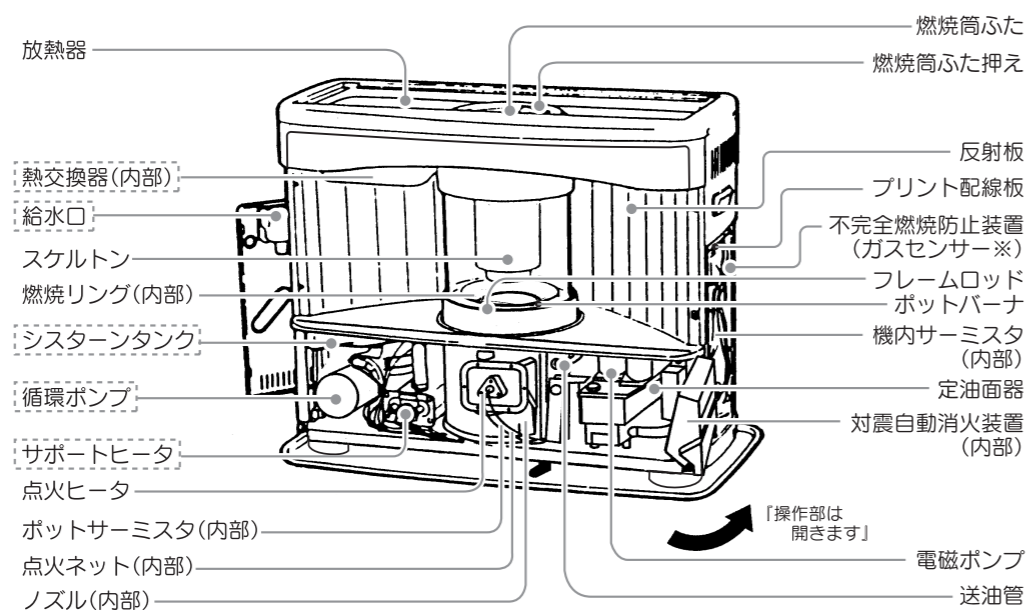
出入口など人の通るところは、ぶつかると危険ですので避けてください。

●部屋の保温を工夫し、部屋の温度の調節を心がけましょう。

ストーブの前面に障害物があると、部屋の温度にむらができるばかりでなく、ふく射熱によってストーブ本体の温度が上昇して危険です。
使用場所には十分注意して効果的に使用してください。

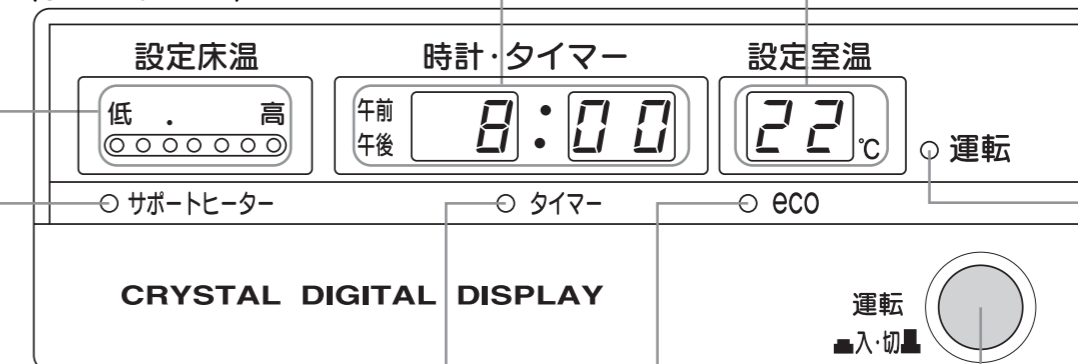
3.各部の名称

外観図

はUH-F7011PRのみ対象です。

構造図

※運転中はガスセンサーが発光・点滅するため、
隙間から光が見えることがあります。

表示部の名称と働き

■運転停止中およびタイマー運転中は節電のため表示の明るさ(輝度)が落ちます。

〈FF-6811PR 表示部〉

オープンポケット内操作部の名称と働き

■オープンポケットの開閉

●オープンポケットを軽く押しこむと、ゆっくり開きます。操作後、軽く押しもどすとロックして止まります。

操作するとき以外は、閉じてご使用ください。

■操作音について

●操作ボタンを押すとピッと音がします。
●誤操作をするとピッ音が２回します。

■表示部の明るさ調節

●時計調節スイッチを「通常」に合わせて「時ボタン」を押しながら「分ボタン」を押すことにより、表示部の明るさを調節することができます。
（このときピッ音が２回しますが、誤操作ではありません。）

注）※印はUH-F7011PRのみ対象です。

※ 床暖切換スイッチ
・「ストーブ床暖」運転と「ストーブ単独」運転を切り換えます。

※ 床温調節ボタン
温水出口温度を27～70℃の範囲に設定します。
・「低」…１回押すたびに設定温度を６℃下げる。
・「高」…１回押すたびに設定温度を６℃上げる。

時計調節スイッチ
・「時計合せ」…現在時刻を合わせるときに「時計合せ」位置にします。
・「タイマー合せ」…タイマーセット時刻を合わせるとき「タイマー合せ」位置にします。
・「通常」…現在時刻やタイマーセット時刻を合わせたら、通常使用中は、「通常」に必ずもどしてください。

火力調節つまみ
・火力調節つまみを「微少」～「大」の間で動かし火力をリニアに手動調節します。
・火力調節つまみを「自動」に合わせるとルームサーモによる自動運転（室温設定ボタンで室温を設定）ができます。

〈UH-F7011PR〉

※サポートヒータスイッチ
・「入」にすると運転します。
・「切」にすると停止します。

サポートヒータの役目
・サポートヒータは電気ヒータです。
・春先や秋口など少し肌寒いと感じるくらいの季節にストーブを運転しないで床暖房運転ができます。
・ストーブ床暖房＋サポートヒータで床暖房能力をアップできます。

時ボタン
・時刻表示の「時」を合わせるときに押します。

分ボタン
・時刻表示の「分」を合わせるときに押します。
・時計調節スイッチの位置により、ボタンを押したときの進み方が異なります。
「時計合せ」…１分ずつ進みます。
「タイマー合せ」…５分ずつ進みます。

室温設定ボタン
・火力調節つまみを「自動」にするとルームサーモによる室温設定〔30～10℃〕ができます。
・「高め」…設定温度を１℃ずつ上げる
・「低め」…設定温度を１℃ずつ下げる

eco運転ボタン
・eco（エコ）運転のセット、解除をするときに押します。

〈FF-6811PR オープンポケット〉

火力調節ツマミを「自動」に合わせると、インバーター燃焼となり、室温と設定温度の差に応じて、自動的に火力が変化します。

時計・タイマー　時計合せ　通常　タイマー合せ　時　分　タイマーセット　自動　手動火力調節　微少 小 中 大　入/切　eco　低め　高め　室温設定

タイマーセットボタン
・タイマー運転
運転スイッチ（または、サポートヒータスイッチ）を「入」にし、タイマーセットボタンを押すことにより、タイマー表示ランプが点灯、時刻表示にタイマーセット時刻が継続して表示され、タイマー運転が開始されます。
（タイマー表示ランプが点灯しなければタイマー運転は開始されません。）
・セット時刻になると、タイマー表示ランプが消灯し現在時刻が表示されて自動的に運転が開始されます。
・タイマー運転の解除
タイマー運転中にもう一度、タイマーセットボタンを押すとタイマー運転が解除されます。

燃　料

燃料は灯油（JIS１号灯油）を必ず使用してください。

●⚠警告　**ガソリンなど揮発性の高い油は、絶対に使用しないでください。火災の原因になります。**

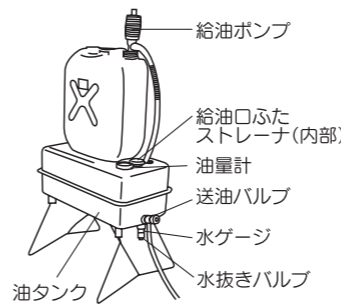
●⚠注意　**変質灯油、不純灯油などは絶対に使用しないでください。**

●⚠注意　**灯油は必ず火気・雨水・ごみ・高温および直射日光を避けた場所に保管してください。ガソリンなどと一緒に保管しないでください。誤って使用すると異常燃焼や火災のおそれがあります。**

ご注意　●変質灯油、不純灯油が原因で修理をされたときは、保証期間中でも保証の対象外となります。
●変質灯油の処理でお困りの場合は、灯油をお買い求めの販売店にご相談ください。

給　油

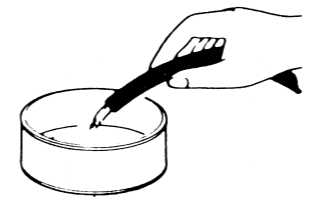
■給油の際の手順と注意

給油ポンプ　給油口ふた　ストレーナ（内部）　油量計　送油バルブ　水ゲージ　水抜きバルブ　油タンク

●⚠注意　**給油は必ず消火してからおこない、こぼれた灯油はよくふきとってください。火災のおそれがあります。**
●送油バルブを閉じて給油口ふたを外し市販の給油ポンプで給油してください。
油量計の針が「満」をさしたら給油をやめてください。
給油後は、給油口にあるストレーナを取り出して、水やごみがたまっていたら掃除してください。
●ストレーナを取り付けて、給油口ふたを必ずもとどおり締めてください。

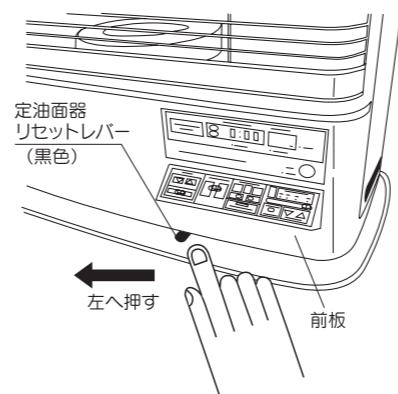
●給油の際は、水・ごみなどを入れないように注意してください。
水・ごみなどは燃焼不良や、ストーブの寿命低下などの原因になります。
●給油口ふたは、確実に締めてください。

●⚠注意　**火災のおそれがありますので、給油は、必ず消火し、火の気のないところでおこなってください。**

■燃料切れの注意と空気抜きの方法

油タンクを空にしないように注意してください。
油タンクを一旦空にしますと、送油経路内に空気がたまり、正常に送油ができなくなることがあります。
このような場合は次の順序で空気抜きをしてください。

1．送油バルブを閉め油タンクに給油します。
2．ストーブのゴム管口から、ゴム製送油管を外します。
3．送油バルブを開けゴム製送油管から灯油が連続して流れ出ることを確かめてからゴム製送油管をもとどおりにストーブに取り付けます。（灯油がこぼれないように容器を用意してください。）

運転開始前の準備と確認

■安全装置のセット、取扱上の注意

定油面器のセット
初めて使用するときやシーズン初めには、ストーブ正面右下の定油面器リセットレバー（黒色）を左方向に止まるまで押してください。

定油面器リセットレバー（黒色）　左へ押す　前板

●リセットレバーは据付け時やシーズン初めに操作します。定油面器に強い衝撃を与えたり異常があったとき以外は、特に操作する必要はありません。
万一点火操作後灯油が出ずにモニタサインＥ１またはＥ２が表示されるような場合はリセットレバーを押してください。
（安全弁が外れ、灯油がスムーズに流れます。）
●リセットレバーは乱暴に扱ったり、押したままの状態には絶対にしないでください。

運転開始前の準備と確認

■送油経路の油漏れの確認

●⚠注意 **油タンク・ゴム製送油管・接合部・給油コックおよび機器などから灯油漏れがないことを確認の上ご使用ください。灯油が漏れていると火災のおそれがあります。**

●油漏れのあるときは使用を中止し、油タンクの送油バルブを閉じてからお買い求めの販売店または、お近くのコロナサービスセンターにご相談ください。

■電気配線の確認

●⚠注意 **電源プラグはコンセントに根元まで確実に差し込んでください。**

●電源コードが給排気筒などの高温部にふれるおそれのないことを確認してください。

ご注意 **電源プラグ・コードの発熱・発火を防ぐために…**

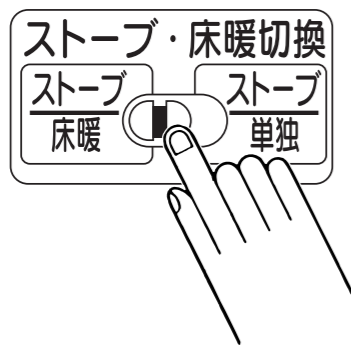
●電源は必ず適正配線された単相100Vコンセントを使用してください。

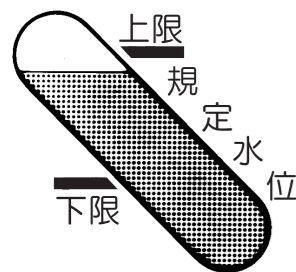
●電源コードは、途中で接続したり延長コードの使用・他の電気器具とのタコ足配線をしないでください。

■点火の要領と注意 (UH-F7011PR)

床暖切換スイッチのセット

ストーブ単独で運転する場合は「ストーブ単独」に、ストーブ床暖房運転をおこなう場合は「ストーブ床暖」に、床暖切換スイッチをセットしてください。床暖切換スイッチのセットは運転開始前におこなってください。

●ストーブ床暖房で運転する場合

●ストーブ単独で運転する場合

循環水の水位確認

●⚠注意 **ストーブ左側面の水位計で、シスターンタンクの規定水位（上限水位と下限水位の間）まで循環水（コロナ床暖房用循環液）が入っていることを確認してください。循環水が入っている場合は黄色になります。**
循環水は上限以上入れないよう注意してください。循環水を上限以上入れると使用中に循環水があふれることがあります。
水位が下限以下の場合は、床暖房専用補充液を入れてください。

温水配管の水漏れの確認

●ストーブ内部や温水配管接合部から水漏れがないか確認してください。

●床暖パネルの温水配管の途中にバルブを取り付けた場合は、必ずバルブが開いていることを確認してください。

■運転中に床暖切換スイッチを操作した場合の注意

●ストーブ単独→ストーブ床暖 …自動的に一旦消火して、約１０分後に再点火し、ストーブ床暖房運転を開始します。そのとき、「ジュー」という循環水の蒸発音が発生することがありますが異常ではありません。

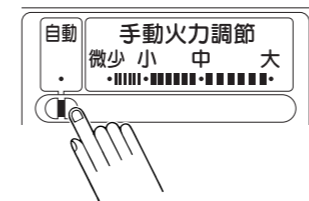
●ストーブ床暖→ストーブ単独 …運転はそのまま継続します。しばらくして「ジュー」という循環水の蒸発音がしますが異常ではありません。

5.使用方法（使い方）

運転開始（点火）

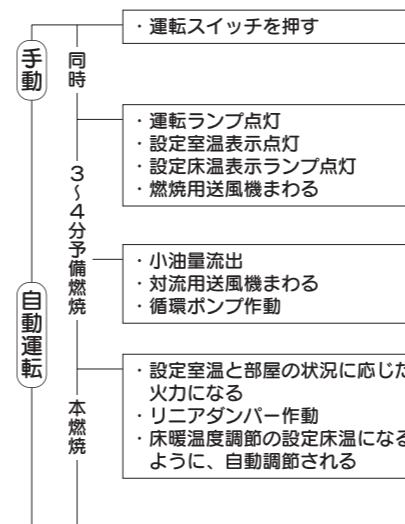
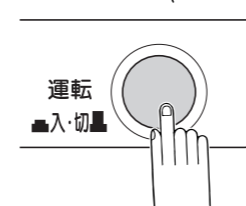
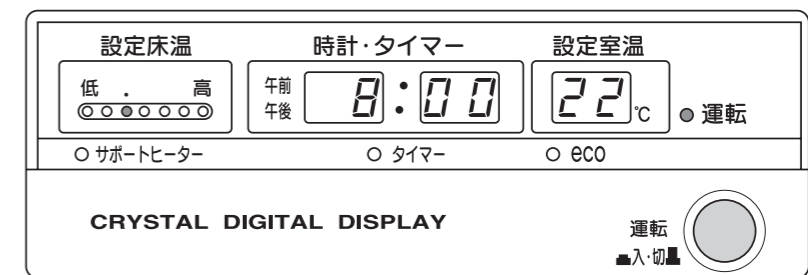
●オープンポケット内の火力調節つまみで「自動運転」と「手動運転」が設定できます。
ご希望の運転方法でご使用ください。

点火順序

■ストーブ火力調節「自動運転」の場合

●火力調節つまみを「自動」に合わせてください。設定室温と部屋の状況に応じた火力で燃焼します。

●時計合せは１６ページ「現在時刻の調節方法」を参照しておこなってください。

(UH-F7011PR)

ストーブ床暖房運転

1. 時刻表示が現在時刻を表示していることを確認してください。
2. オープンポケット内の床暖切換スイッチを「ストーブ床暖」に合わせてください。
3. 運転スイッチを押して「入」にしてください。
   約３～４分間の予備燃焼が終わると本燃焼になります。

※予備燃焼後約2.5分間、火力は中火力になります。

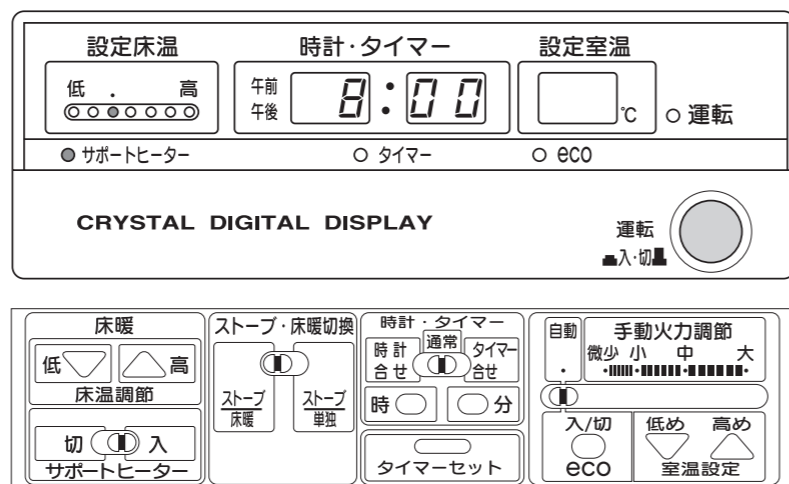
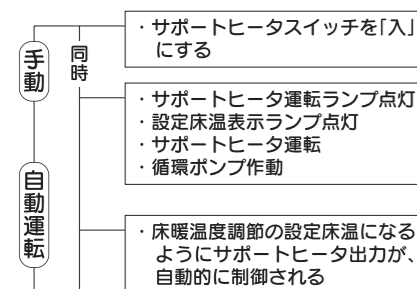
●予備燃焼時に黄色い炎（赤火）が混じる場合がありますが、異常ではありません。

運転開始（点火）

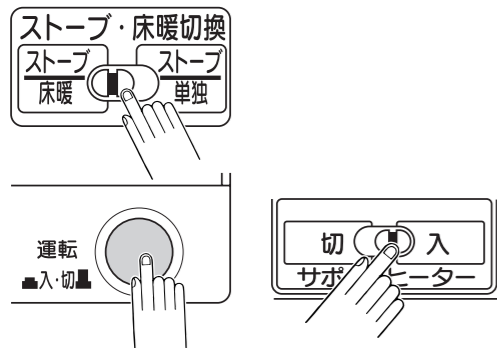
(UH-F7011PR)

サポートヒータ運転

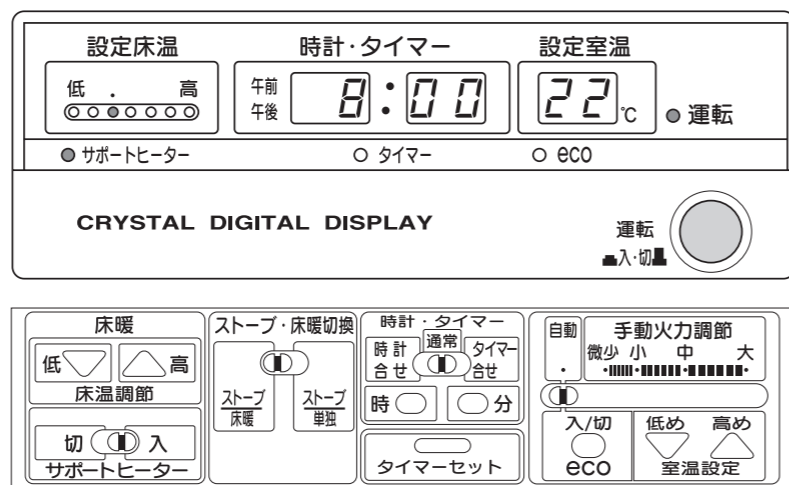
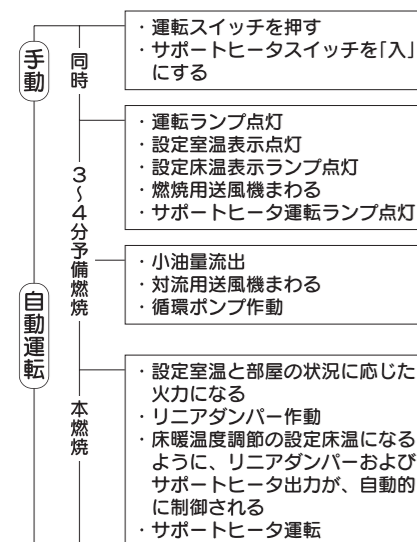
●サポートヒータは電気ヒータです。春先や秋口など少し肌寒いと感じるくらいの季節にストーブを運転しないで床暖房運転ができます。

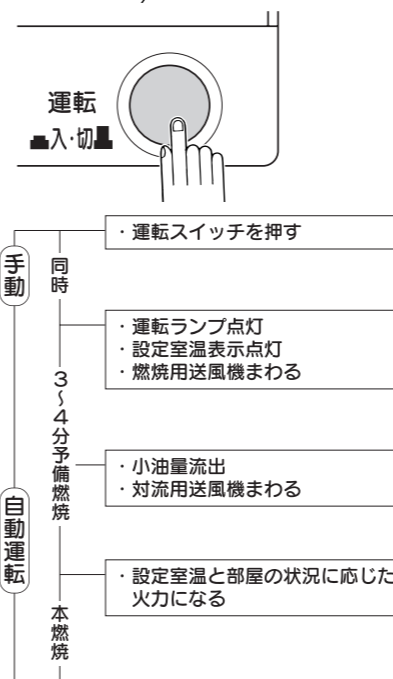
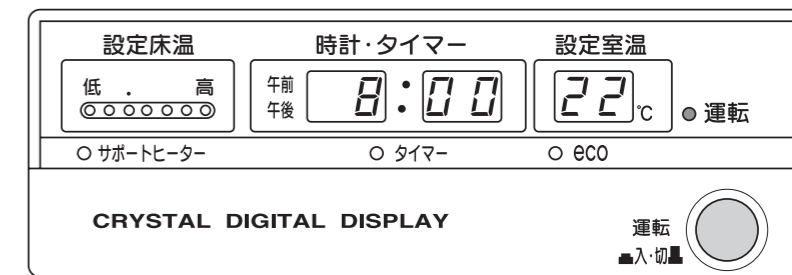
1．時刻表示が現在時刻を表示していることを確認してください。
2．オープンポケット内のサポートヒータスイッチを「入」にしてください。
次のように運転します。

(UH-F7011PR)

ストーブ床暖房・サポートヒータ併用運転

●ストーブ床暖房プラスサポートヒータで床暖房能力をアップできます。

1．時刻表示が現在時刻を表示していることを確認してください。
2．オープンポケット内の床暖切換スイッチを「ストーブ床暖」に合わせてください。
3．運転スイッチを押して「入」にしてください。
4．オープンポケット内のサポートヒータスイッチを「入」にしてください。
約３～４分間の予備燃焼が終わると本燃焼になります。

※予備燃焼後約２.５分間、火力は中火力になります。
●予備燃焼時に黄色い炎（赤火）が混じる場合がありますが、異常ではありません。

5.使用方法（使い方）

(UH-F7011PR) (FF-6811PR)

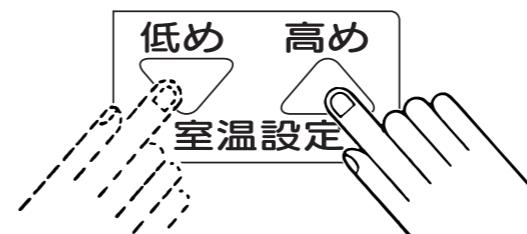
ストーブ単独運転

1．時刻表示が現在時刻を表示していることを確認してください。
2．オープンポケット内の床暖切換スイッチを「ストーブ単独」に合わせてください。（UH-F7011PRのみ対象です。）
3．運転スイッチを押して「入」にしてください。
約３～４分間の予備燃焼が終わると本燃焼になります。

※予備燃焼後約２.５分間、火力は中火力になります。
●予備燃焼時に黄色い炎（赤火）が混じる場合がありますが、異常ではありません。

■ストーブ火力調節「手動運転」の場合

●オープンポケット内の火力調節つまみを「微少」～「大」の間のご希望の位置に合わせてください。
表示部の設定室温表示が消え、予備燃焼が終了すると火力調節つまみの設定火力で燃焼します。ただし、予備燃焼後、約２.５分間は最大火力になりません。
●予備燃焼時に黄色い炎(赤火)が混じる場合がありますが､異常ではありません。

●運転スイッチを「入」にしたとき、運転ランプが点灯せずにタイマー表示ランプが点灯する場合は、タイマー運転になりますので、タイマーセットボタンを押してタイマー運転を解除してください。
●燃焼中に運転スイッチを押して「消火」にしたり、タイマーセットボタンを押すなどして約１秒以上通電を止めると自動消火し、約２分間の冷却の後でないと再点火できません。

室温の調節（自動運転）

オープンポケット内の火力調節つまみを「自動」に合わせると、ルームサーモによる自動運転となり、設定室温に自動調節されます。
表示部に設定室温（２２℃）が表示されますので次のように調節してください。

●室温設定ボタン「高め」を押すたびに１℃上がります。
（上限３０℃）
●室温設定ボタン「低め」を押すたびに１℃ずつ下がります。
（下限１０℃）

●自動運転時に微少火力でも室温が設定室温より上昇する場合、設定室温より３℃上昇すると自動的に消火するeco（エコ）運転をおすすめします。（１３ページ　eco（エコ）運転の項を参照してください。）
室温が設定室温より３℃上昇すると消火し、お部屋のムダな暖めすぎをおさえます。

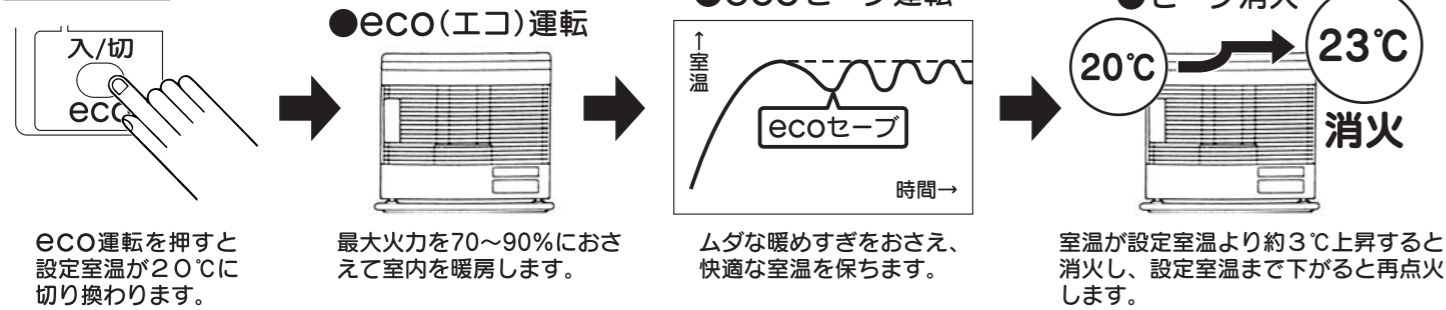
室温の調節（自動運転）

eco（エコ）運転

eco（エコ）運転は、自動運転時にeco運転ボタンを押すとご希望の設定室温に切り換わり、セーブ消火とecoセーブ運転でムダな暖めすぎをおさえ、経済的で快適な室温を保ちます。
また、自動運転時は最大火力を７０～９０％、手動運転時は最大火力を８０～９０％におさえてお部屋を暖めすぎないように運転します。

自動運転時〔設定室温２０℃の場合〕

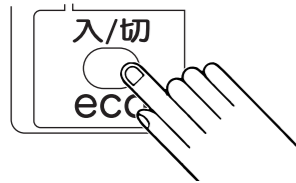
入/切
eco
ecoセーブ
20℃
23℃
消火
室温→
時間→

	●eco（エコ）運転	●ecoセーブ運転	●セーブ消火
eco運転を押すと設定室温が２０℃に切り換わります。	最大火力を70～90%におさえて室内を暖房します。	ムダな暖めすぎをおさえ、快適な室温を保ちます。	室温が設定室温より約３℃上昇すると消火し、設定室温まで下がると再点火します。

※設定室温の初期設定は２０℃です。設定室温は室温設定ボタンで１０～３０℃に変更できます。
●室温が２０℃未満で３０分以上運転した場合は、最大火力を９０％におさえて運転します。
●室温が２０℃以上の場合、最大火力を８０％におさえて運転します。
●室温が２４℃以上で３０分以上運転した場合、(設定室温を２２℃以上に設定）最大火力を７０％におさえて運転します。

●eco(エコ)運転でセーブ消火がくりかえされるとガラス円筒にすすがつくことがあります。
ときどきeco(エコ)運転を解除し、火力を中～大で１～２時間燃焼させてください。

手動運転時

※火力調節つまみが「中」～「大」のときeco（エコ）運転をします。
●室温が２０℃以上の場合、最大火力を９０％におさえて運転します。
●室温が24℃以上で３０分以上運転した場合、最大火力を８０％におさえて運転します。

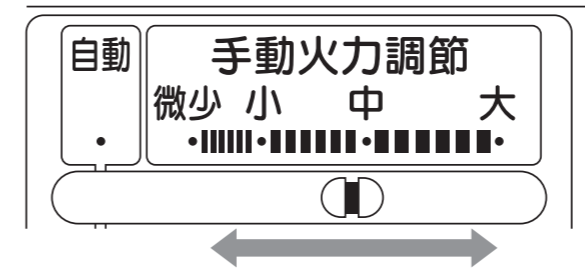
■eco(エコ)運転方法　eco運転ボタンを押してください。

●eco運転表示ランプが点灯し、eco（エコ）運転に入ります。

■eco(エコ)運転の解除　再度、eco運転ボタンを押してください。

●eco（エコ）運転表示ランプが消灯し、eco（エコ）運転を解除します。
●eco（エコ）運転を解除するとeco（エコ）運転前の設定に戻ります。

eco（エコ）運転は一度セットすると記憶されますので、消火しても解除されません。

火力調節（手動調節－手動運転）

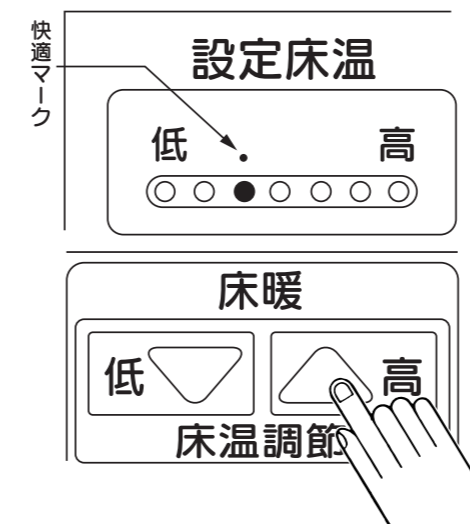
室温設定による自動運転の他に、火力調節つまみによる手動火力調節が可能です。
次のようにしてください

●オープンポケット内の火力調節つまみを「微少」～「大」の間のご希望の位置に合わせてください。
火力調節つまみの設定火力で燃焼します。

■炎の状態

ストーブの据付けや給排気筒の設置条件で、炎は多少変化します。

●燃焼中の炎に黄色い炎（赤火）が混じったり、かたよったり、上下変動することがありますが異常ではありません。

床暖パネルの温度調節 UH-F7011PR

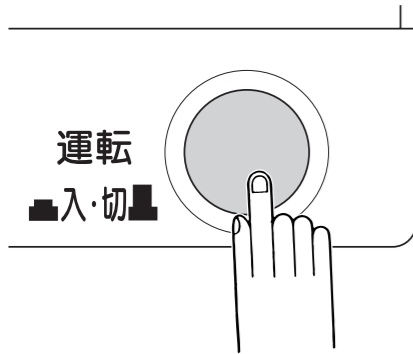
ストーブ床暖房運転、サポートヒータ運転、ストーブ床暖房・サポートヒータ併用運転のいずれの場合も循環水が設定温度になるように、自動的に温度調節されます。また、設定床温表示ランプに快適マークがついています。快適マークは、床暖パネルのカーペット表面をほぼ３３～３４℃（床暖パネル３畳の場合）に保つ循環水温度を示します。ご参考にされると便利です。

1．特に温度設定しない場合は、自動的に快適マークの位置（設定床温表示ランプの３つ目）に設定されランプ表示します。
2．床温調節ボタンを押すと次のように床温調節でき設定床温表示ランプも移動点灯します。
・「低」……１回押すたびに設定温度を６℃下げ、ランプ表示が左に移動。
・「高」……１回押すたびに設定温度を６℃上げ、ランプ表示が右に移動。

●設定床温は、床暖パネルの温度設定です。お部屋の温度設定は設定室温または、火力調節つまみでおこなってください。カーペットの表面が熱くなりすぎないよう設定床温には、十分注意してください。

運転停止（消火）

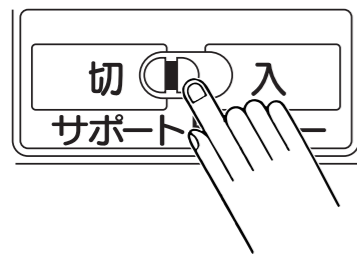
消火順序

UH-F7011PR　FF-6811PR

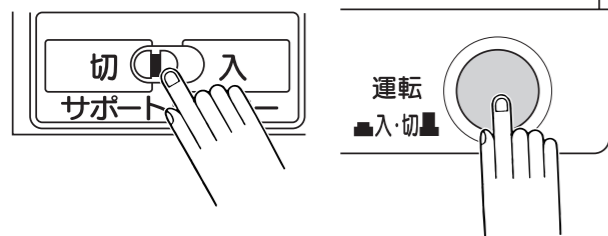
ストーブ床暖房運転　ストーブ単独運転

運転スイッチを押して「切」にしてください。
運転ランプが消灯します。
燃焼室が冷却すると、約１０分後に燃焼用送風機、対流用送風機、※循環ポンプ（ストーブ床暖房運転のみ）が停止し、時刻表示以外のすべてのランプが消灯します。

※印はUH-F7011PRのみ対象です。

UH-F7011PR

サポートヒータ運転

サポートヒータスイッチを「切」にしてください。
サポートヒータ運転ランプ、設定床温表示ランプが消灯し、サポートヒータ、循環ポンプが運転を停止します。

UH-F7011PR

ストーブ床暖房・サポートヒータ併用運転

運転スイッチ、サポートヒータスイッチを「切」にしてください。
運転ランプ、サポートヒータ運転ランプが消灯し、サポートヒータが運転を停止します。燃焼室が冷却すると、約１０分後に燃焼用送風機、対流用送風機、循環ポンプが停止し、時刻表示以外のすべてのランプが消灯します。
サポートヒータスイッチの切り忘れに注意してください。

- **⚠注意　２日以上家をあけるなど長時間使用しない場合は、運転が完全に停止してから電源プラグをコンセントから抜いてください。**
- 外出のときは、必ず運転を停止（消火）してください。
- 緊急時以外に、ストーブに強い衝撃を与えたり、電源プラグを抜いての消火はしないでください。

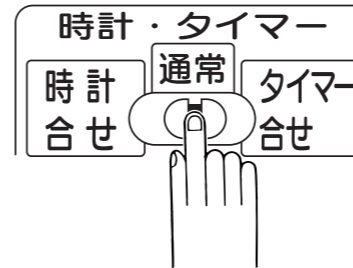
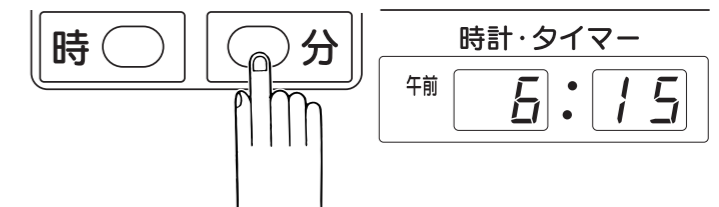
消火後、再点火するときの注意

- 燃焼中に誤って電源プラグを抜いたり、運転スイッチを「切」にすると再点火安全装置の働きでストーブが冷却されるまでの約２分間は再点火できません。
  ただし瞬間的な消火操作（約1秒以内）の場合は、そのまま燃焼が継続されます。

5.使用方法（使い方）

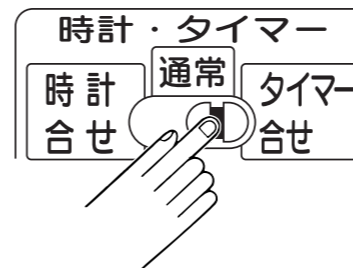
現在時刻の調節方法

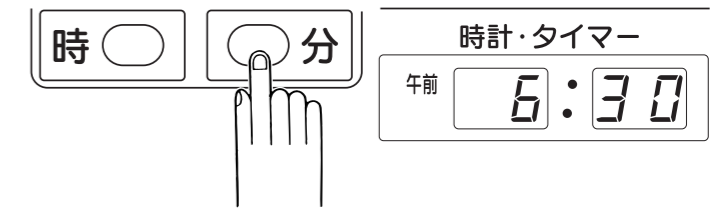
1．オープンポケット内の時計調節スイッチを「時計合せ」にします。
　はじめて使用するときや、電源プラグを長時間抜いたときは、時刻表示は ーー：ーー を表示します。
2．時計調節の「時」・「分」ボタンを押して現在時刻を合わせます。

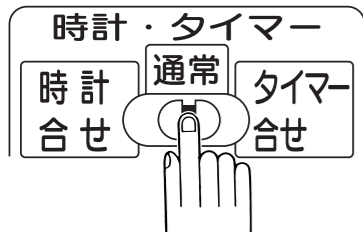
例：午前６時１５分に合わせる場合
①「時」ボタンを押して“午前６：００”にします。　②「分」ボタンを押して“午前６：１５”にします。

3．必ず時計調節スイッチを「通常」位置にもどしてください。
（時計は、時計調節スイッチを「通常」位置にもどした時点から動き始めます。）

- 必ず時計調節スイッチが「通常」になっていることを確認してください。
- ３０秒以内の停電であれば、再通電後も現在時刻を表示しますので時刻合わせの必要はありませんがそれ以上の停電で、時刻表示が ーー：ーー を表示した場合は、時刻合わせをおこなってください。

タイマーの使用方法

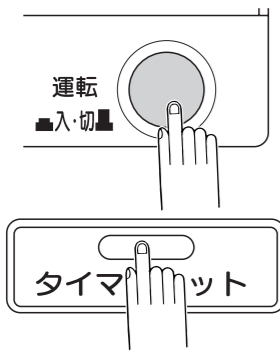
■運転時刻の合わせ方

1．オープンポケット内の時計調節スイッチを「タイマー合せ」にします。
2．時計調節の「時」・「分」ボタンを押してタイマー点火時刻を合わせます。「分」は５分きざみに動きます。

例：午前６時３０分に合わせる場合
①「時」ボタンを押して“午前６：００”にします。　②「分」ボタンを押して“午前６：３０”にします。

これでタイマーセット時刻が記憶されました。

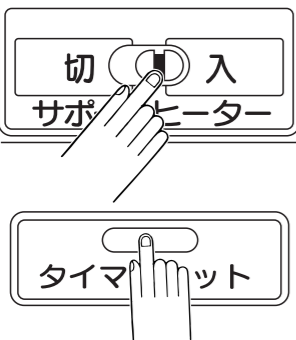
タイマーの使用方法

3．必ず時計調節スイッチを「通常」位置にもどしてください。これで時刻表示には現在時刻が表示されます。

■タイマー運転方法

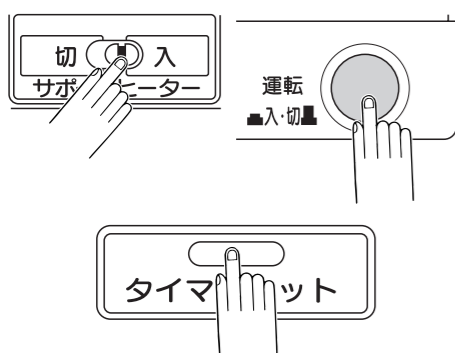
(UH-F7011PR) (FF-6811PR)

ストーブ床暖房運転　ストーブ単独運転

1．運転スイッチを押して「入」にしてください。
（運転中の場合は運転スイッチを押す必要はありません。）
2．ご希望の設定室温または、火力に合わせてください。
3．※床温調節ボタンで、床暖温度をご希望の温度に合わせてください。
（ストーブ床暖房運転の場合）　※印はUH-F7011PRのみ対象です。
4．タイマーセットボタンを押してください。
時刻表示にタイマーセット時刻が表示され、タイマー表示ランプが点灯し、タイマー運転に入ります。
（運転停止中にタイマー運転をした場合は燃焼用送風機が10分間運転します。また、運転中にタイマー運転をした場合は、自動消火し、運転を停止します。）

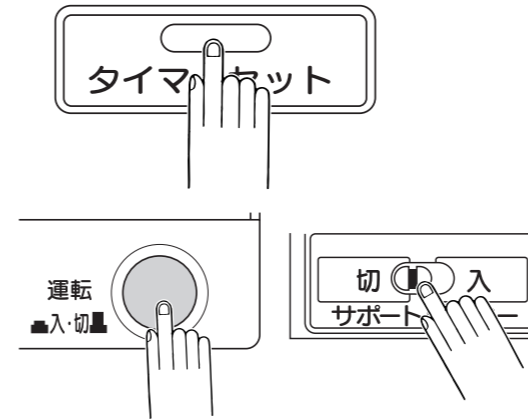
(UH-F7011PR)

サポートヒータ運転

1．オープンポケット内のサポートヒータスイッチを「入」にしてください。
2．床温調節ボタンでご希望の設定床温に合わせてください。
3．タイマーセットボタンを押してください。
時刻表示にタイマーセット時刻が表示され、タイマー表示ランプが点灯し、タイマー運転に入ります。

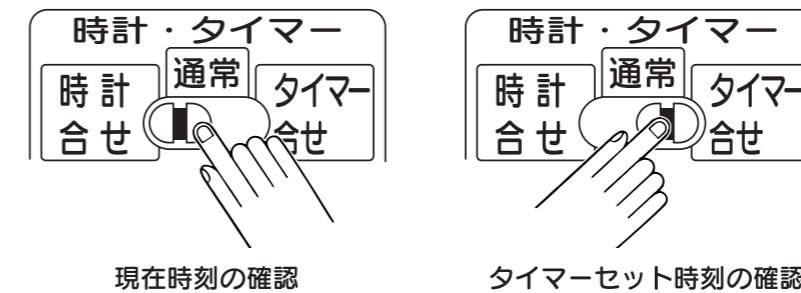
(UH-F7011PR)

ストーブ床暖房・サポートヒータ併用運転

1．運転スイッチとサポートヒータスイッチを「入」にしてください。
（運転中の場合は運転スイッチを押す必要はありません。）
2．ご希望の設定室温または、火力に合わせてください。
3．床温調節ボタンでご希望の設定床温に合わせてください。
4．タイマーセットボタンを押してください。
時刻表示にタイマーセット時刻が表示され、タイマー表示ランプが点灯し、タイマー運転に入ります。
（運転停止中にタイマー運転をした場合は燃焼用送風機が10分間運転します。また、運転中にタイマー運転をした場合は、自動消火し運転を停止します。）

●外出時など、留守中に燃焼を開始するようなタイマーセットは、絶対にしないでください。
●タイマー運転は、運転スイッチが「入」になっていないと運転が開始されません。
●タイマー運転中は節電のためタイマーセット時刻表示の明るさ（輝度）が落ちます。
●タイマーセット時刻になるまでは、時刻表示にタイマーセット時刻が表示され続けます。

■タイマー運転の解除

●再度、タイマーセットボタンを押してから運転スイッチおよびサポートヒータスイッチを「切」にしてください。
タイマー表示ランプが消灯し、時刻表示に現在時刻が表示されタイマー運転が解除されます。

■タイマーセット時刻・現在時刻の確認

現在時刻の確認

タイマーセット時刻の確認

①時計調節スイッチを「時計合せ」または「タイマー合せ」に合わせます。
②現在時刻または、タイマーセット時刻が時刻表示に表示されます。
③確認後、時計調節スイッチは、必ず「通常」位置にもどしてください。

自己診断モニタについて

ストーブにトラブルが発生するとトラブルの状態が表示部に記号表示（自己診断モニタ）されます。
「故障・異常の見分け方と処置方法」（27～28ページ）をご覧になり、記号表示に合った必要な処置をしてください。

〈自己診断モニター覧表〉

表示	原因	解除方法
E1	途中消火	①
E2	不着火	
E3	対震作動	
E5	排気管抜け検知作動	
E6	ルームサーモ断線	
E7	過熱防止装置作動	
E9	停電	
E8	疑似火炎	
EA	燃焼用送風機異常検出	
EC	ルームサーモ短絡	
EE	停止時ポット異常過熱	
E0	機内サーミスタ作動	

表示	原因	解除方法
P1	ポット予熱不足	②
P2	ポット温度低下	
P3	ポット異常過熱	
P4	不消火（消火時間が長い）	
P5	基板不良	
F1 ※	熱交サーモ作動	①
F2 ※	湯温サーミスタ断線	
FC ※	湯温サーミスタ短絡	
HE	不完全燃焼防止装置検知部異常	③
HC点滅	不完全燃焼防止装置作動	
HH点滅	連続不完全燃焼通知機能作動	
HH点灯	再点火防止機能作動	④

注）※印はUH-F7011PRのみ対象です。

■解除方法

①運転スイッチを一旦「切」にし、再び「入」にしてください。
②お買い求めの販売店または、お近くのコロナサービスセンターに修理を依頼してください。
③直ちに部屋の換気を十分にして、運転スイッチを一旦「切」にし、再び「入」にしてください。
④解除できません。直ちに部屋の換気を十分にして、お買い求めの販売店または、お近くのコロナサービスセンターに修理を依頼してください。

お願い

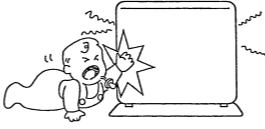
●お買い求めの販売店または、お近くのコロナサービスセンターに連絡していただく際は、表示している自己診断モニタもお知らせください。

使用上の注意

本書の「特に注意していただきたいこと（安全のために必ずお守りください）」の他に、次の項目についても注意してください。

●ストーブの上面板・上面ガード・前面ガードなどは高温です。やけどに注意してください。
特にお子さまをストーブに近づけないでください。
●上面ガードを取り外したり、前面ガードを開いたまま使用しないでください。誤って放熱器やガラス円筒などの高温部にふれますとやけどをします。また上面ガードは、地震などにより可燃物が落下したときなどに火災を防止するためのものです。やむをえず取り外した場合は、必ずもとの状態に取り付けておいてください。
●雷が発生したとき、雷（誘導雷）により一時的な過電圧がかかっても、過電圧防止装置が機器を保護するしくみになっていますが、大きな雷（直撃雷など）の場合は、電子部品を損傷するおそれがありますので、電源プラグをコンセントから抜いてください。
●給排気筒トップや排気管は高温です。やけどに注意してください。
●給排気筒閉そく危険

⚠警告 給排気筒がつまったり、ふさがれたままで使用しないでください。ふさがれているときは、除雪してください。また、板などによる「雪囲い」は給排気の妨げになるのでおやめください。
閉そくしていると運転中に排ガスが室内に漏れて、危険です。

●ガラス円筒には水をかけたり、衝撃をあたえたりしないでください。ガラスが割れ危険です。
●ストーブ前面付近は、ふく射熱が強いので、熱に弱いものを置いたり、敷いたりしないでください。変色や変形したりすることがあります。
●シーズンオフのように長期間使用しないときは、コンセントから電源プラグを抜いてください。

床暖房の床温調節 （UH-F7011PR）
●設定床温は、床暖パネルの温度設定です。お部屋の温度設定は設定室温または火力調節つまみでおこなってください。
カーペットの表面が熱くなりすぎないよう設定床温には十分注意してください。

循環水の凍結予防（循環液の注入） （UH-F7011PR）
腐食予防および凍結予防のために必ず循環液を入れてください。
●循環液は必ずコロナ床暖房用循環液（別売品）をご使用ください。他の不凍液を使用したり混合したりすると製品の寿命が短くなります。
●循環液は３年を目安に入れかえてください。（開封した循環液も含む）

このストーブには次のような安全装置がついています。
すべての安全装置は、異常が取り除かれても再度点火操作をしなければ運転は停止したままです。

安全装置	原因・作動結果	処置方法
対震自動消火装置 （E3 表示）	●強い地震（震度約５以上）や衝撃を受けたとき ⇩ ・自己診断モニタ E3 表示 ・自動的に消火	●ストーブの周辺や給気ホース・排気管の外れ、油漏れなどの異常がないことを確認してから点火操作をしてください。 （対震自動消火装置は作動後自動的にセットされます。）
点火安全装置 ・ 燃焼制御装置 （フレームロッド） （E1 表示・E2 表示） （途中消火）（不着火）	●点火ミスをしたとき ●途中消火をしたとき ●炎が異常に小さいとき ⇩ ・自己診断モニタ E1 表示または E2 表示 ・自動的に消火	●日常の点検・手入れ（２２～２６ページ参照）をしてから点火操作をしてください。 ●なおも異常がある場合は、お買い求めの販売店または、お近くのコロナサービスセンターにご相談ください。
停電安全装置 （E7 表示・E9 表示） （３０秒以上）（１秒以上３０秒未満）	●停電したとき ●電源プラグが抜けたとき ⇩ ・通電後自己診断モニタ E7 表示または E9 表示 ・自動的に消火	● E7 の場合、時計などのセットをしてから、点火操作をしてください。 ● E9 の場合、通電後点火操作をしてください。 ●電源プラグを確認してください。
過熱防止装置 （安全サーモスタット８５℃） （E7 表示）	●対流用送風機のファンガードやストーブの全面がふさがったとき ●ストーブの前面に障害物などがあるとき ⇩ ・自動的に消火 ・ストーブが冷却された後自己診断モニタ F7 表示	●原因を取り除いてから点火操作をしてください。 ●処置をしても繰り返し作動するときは、一旦運転スイッチを押して「切」にし、お買い求めの販売店または、お近くのコロナサービスセンターに連絡してください。
不完全燃焼防止装置 ●ガスセンサー （HC 点滅表示）	●排気が室内に漏れ不完全燃焼防止装置が働いたとき ⇩ ・自己診断モニタ HC 点滅表示 ・自動的に消火	●部屋の換気を十分にしてください。 ●排気管が外れていないか、他の燃焼機器の影響を受けていないか確認してください。
連続不完全燃焼通知機能 （HH 点滅表示）	●不完全燃焼防止装置が連続して４回作動し「連続不完全燃焼通知機能」が働いたとき ⇩ ・自己診断モニタ HH 点滅表示 ・自動的に消火	●部屋の換気を十分にして、お買い求めの販売店またはお近くのコロナサービスセンターに連絡してください。
再点火防止機能 （HH 点灯表示）	●さらに不完全燃焼防止装置（不完全燃焼通知機能）が連続して３回作動し再点火防止機能が働いたとき ⇩ ・自己診断モニタ HH 点灯表示 ・自動的に消火 ・再点火できません。	（同上）

７.その他の装置

装置の名称	原因・作動結果	処置方法
再点火安全装置	●消火直後、再点火操作したとき ⇩ ・約２分間の冷却後でないと点火動作に入らない	（●約２分経過後、自動的に点火動作を開始します。）
排気管抜け検知装置 （E5表示）	●排気管の接続部が外れたとき ●排気管抜け検知用リード線が外れたり、断線したとき ⇩ ・自己診断モニタ E5 表示 ・ストーブの運転を停止	●給排気筒および排気管の接続部に、外れ・ゆるみがないか確認してください。 ●排気管抜け検知用リード線のゆるみまたは、外れ・切れがないか確認してください。 給排気筒　ねじ　給気口キャップ　排気管抜け検知用リード線
燃焼用送風機異常検出装置 （EA表示）	●回転数が異常に低下したとき ⇩ ・自己診断モニタ EA 表示 ・ストーブの運転を停止	●お買い求めの販売店または、お近くのコロナサービスセンターにご相談ください。
過電流防止装置 （表示部全消灯）	●内部配線のショートにより過電流が流れたとき ⇩ ・電流ヒューズが切れ、すべての運転を停止	●お買い求めの販売店または、お近くのコロナサービスセンターに修理を依頼してください。
※ 循環水過昇防止装置 （F1表示）	●循環水が極端に減少したとき ●循環水が循環しないとき ⇩ ・自己診断モニタ F1 表示 ・ストーブの運転を停止	●循環水の量を確認する等により循環水過昇原因を取り除いてから点火操作をしてください。 ●なおも異常がある場合はお買い求めの販売店または、お近くのコロナサービスセンターにご相談ください。
※ サポートヒータ過熱防止装置	●循環水が極端に減少したとき ●循環水が循環しないとき ⇩ ・サポートヒータへの通電を停止（温度が下がると自動的に通電を再開）	●運転を一旦停止して、日常の点検・手入れ・循環水の補給（２６ページ）をしてください。 ●なおも異常がある場合はお買い求めの販売店または、お近くのコロナサービスセンターにご相談ください。
機内サーミスタ （E0表示）	●対流用送風機が異常停止したとき ●対流用送風機のファンガードやストーブの前面がふさがったとき ●ストーブの前面に障害物などがあるとき ⇩ ・自己診断モニタ E0 表示 ・自動的に消火	●原因を取り除いてから点火操作をしてください。 ●なおも異常がある場合はお買い求めの販売店または、お近くのコロナサービスセンターにご相談ください。

注）※印はUH-F7011PRのみ対象です。

８.日常の点検・手入れ

点検、手入れのときの注意

点検・手入れは消火後、ポットバーナが冷却してから必ず電源プラグをコンセントから抜いておこなってください。

ご注意
●電気部品の分解や市販品との交換は絶対にしないでください。
●燃焼部の分解は絶対にしないでください。

点検、手入れの必要項目、時期、方法

■周囲の可燃物（使用ごと）

●**⚠注意** **ストーブの周囲は、常に整理・掃除し、燃えやすいものを置かないでください。**

■ほこり（使用ごと）

●ストーブにほこりが付いた状態で運転をしないでください。
●ストーブ外観のほこりや汚れは乾いたやわらかい布などできれいにふきとってください。シンナー・アルコール・ベンジンなどは使用しないでください。

■油漏れ・油のたまり・油のにじみ（使用ごと）

●置台・油タンクに油漏れ・油のたまりや油のにじみがないか、点検してください。
また、給油の際にこぼれた灯油は、よくふきとってください。

●油漏れのある場合は、お買い求めの販売店または、お近くのコロナサービスセンターに修理を依頼してください。

■ゴム製送油管の点検・交換の目安（シーズンの初め）

●**⚠注意** **油タンクやゴム製送油管・接合部・給油コックおよび機器などからの灯油漏れがないことを確認の上ご使用ください。**

ご注意
●**ゴム製送油管は、屋外で使用しないでください。屋外での使用は禁止されています。**
●ゴム製送油管は、経年変化しますので、手で少し曲げ、ひび割れがないか点検し、ひび割れがあるときは交換してください。交換の目安は、3年に1度です。交換はお買い求めの販売店または、お近くのコロナサービスセンターに依頼してください。

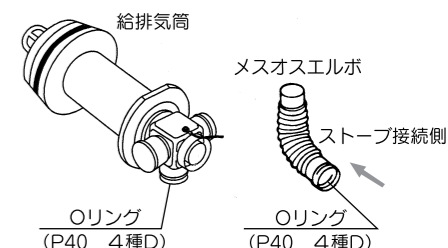
■油タンク（シーズンの初め、適時）

●油タンク内に水やごみがたまっていないか点検してください。
油タンク内の水抜きおよび掃除は、油タンク付属の取扱説明書に従っておこなってください。

■給排気筒接続部のゆるみおよびトップ周囲の点検（使用ごと）

●**⚠警告** **給排気筒（管・ホース）が外れたまま使用しないでください。外れていると運転中に排ガスが漏れて危険です。**
●**⚠警告** **積雪が多いときには、給排気筒トップの周りが雪でふさがれていないことを確認してください。**
●給排気筒およびトップの周囲に障害物が置いてないか、ときどき点検してください。
障害物が置いてある場合は、移動してください。

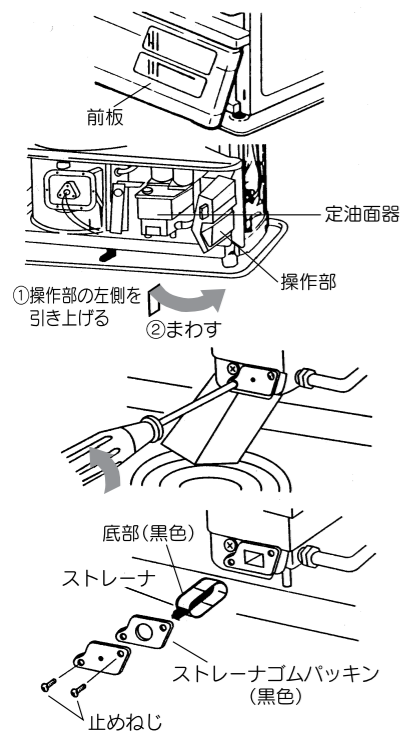
■給排気筒接続部のゆるみおよびトップ周囲の点検（1シーズン1～2回）

●給排気筒がつまると不完全燃焼をおこします。
シーズン初めには必ず点検し、くもが巣をつくったり異物が入ったりしているときは、必ず掃除してください。
●給排気筒および、排気筒の接続部が外れたり、排気管抜け検知リード線が外れたり、断線していないか点検してください。
●給排気筒を一度取り外して、再び取り付けるとき、排気管の接続部内部にはめこんであるOリングが破損していないか確かめてください。
破損していた場合は、お買い求めの販売店または、お近くのコロナサービスセンターに交換を依頼してください。

■給気ホース・排気管の点検（シーズンの初め、適時）

●給気ホース・排気管の接続部が外れていないか点検してください。
●給気ホースが排気管にあたっていないか点検してください。

■定油面器のストレーナの掃除（適時）

（お買い求めの販売店または､お近くのコロナサービスセンターに依頼してください。）

●定油面器には、ごみを除くためのストレーナがついています。
ごみがたまると灯油の流れを妨げて十分な火力が出なくなります。
次のように掃除してください。

1．油タンクの送油バルブを閉じてください。

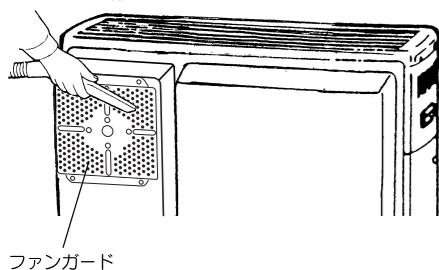
2．ストーブの前板を止めているねじ（５本）を外し、前板の下側を引き上げて前に引いて取り外してください。

3．操作部を左図のように、①操作部の左側を少し引き上げて、②手前にまわして開いてください。

4．ストレーナの掃除口にハガキなどの厚紙を差し込んで油ガイドを作り、その下に容器を置いてストレーナの止めねじをゆるめて外してください。定油面器の汚れた灯油やごみが全部流れ出ます。

5．ストレーナを取り出してきれいな灯油の中ですすぎ洗いをしてください。（水で洗わないでください。）

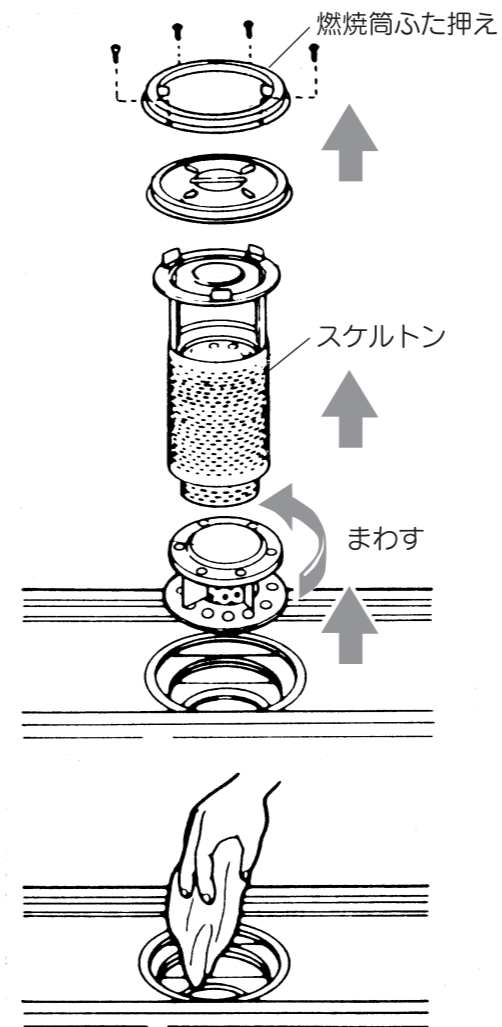
組み立てるときは
●ストレーナゴムパッキンを忘れないようにしてください。
●ストレーナを逆に入れないでください。また、底部（黒色）が必ず左横になるように取り付けてください。
●ストレーナの止めねじを固く締め付けてください。
●油漏れがないか確認してください。

■対流用送風機のファンガードの掃除（週に1回以上）

●ファンガードがごみやほこりで目づまりすると送風力が弱くなり排気温度が上昇する原因になります。〔過熱防止装置（安全サーモスタット）または機内サーミスタの働きで運転が停止する場合があります。〕次のようにストーブ裏面のファンガードの掃除をおこなってください。

1．運転を停止し、対流用送風機が止まっていることを確認してください。
2．掃除機などでファンガードについたほこりを取り除いてください。

■ポットバーナの掃除（適時）

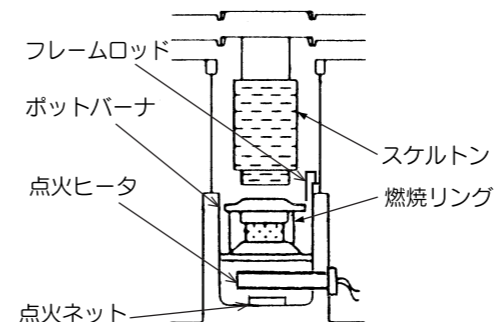
（お買い求めの販売店または､お近くのコロナサービスセンターに依頼してください。）

● **ご注意 掃除は、ストーブを消火させ十分冷却してからおこなってください。熱い状態でおこなうとやけどのおそれがあります。**
●ポットバーナにすすがついて炎の形が不揃いになったときや消火がおそくなったときは、次のようにすすを取り除いてください。

1．上面ガードを外して４本のねじを外し、燃焼筒ふた押えを取ってください。

2．燃焼筒ふたを外してください。

3．スケルトンをガラス円筒にあてないように取り外してください。

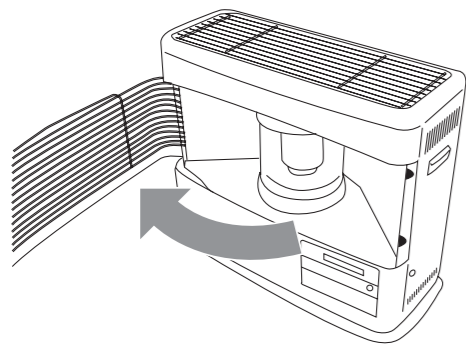
4．燃焼リングをフレームロッドに当てないように注意して左図の方向に燃焼リングをまわし、取り外してください。

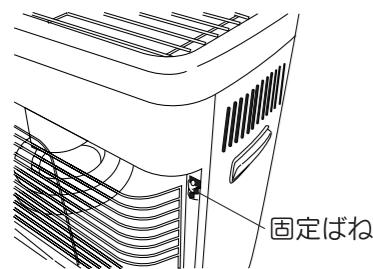
5．ノズル、点火ヒータ、点火ネットを変形させないようにポットバーナ内部のすすをドライバーなどでかき落としてから布などでふきとってください。

6．組立ての際、燃焼リングは、左図のように確実に取り付けてください。

点検、手入れの必要項目、時期、方法

■反射板・ガラス円筒の掃除（適時）

● ご注意 **掃除は、ストーブを消火させ十分冷却してからおこなってください。**
熱い状態で行うとやけどのおそれがあります。

●反射板およびガラス円筒にほこりがたまると、反射効率が悪くなるばかりでなく危険です。
次のようにほこりを取り除いてください。

1. 前面ガードを右側の固定ばね（2個）から外し左側にまわしてください。
2. ガラス円筒を割らないように注意して掃除機などで反射板およびガラス円筒のほこりをきれいに掃除してください。
3. やわらかい布などで反射板およびガラス円筒をきれいにふいてください。
4. 掃除が終わったら、もとどおりに取り付けてください。

●前面ガードは、確実に取り付けてください。

■ガラス円筒内部の掃除（適時）（お買い求めの販売店または、お近くのコロナサービスセンターに依頼してください。）

● ご注意 **掃除は、ストーブを消火させ十分冷却してからおこなってください。**
熱い状態で行うとやけどのおそれがあります。

●長期間の使用によりガラス円筒がすすけて炎が見えにくくなったときは、２４ページ「ポットバーナの掃除」の項に従い、スケルトンを外してガラス円筒を掃除してください。

●ガラス円筒には、水をかけたり、衝撃を与えないように注意してください。
●運転中にガラスが徐々にすすけた場合は、しばらくの間（約３０分間）火力を大きくすることにより、すすを除去することができます。

■点火ヒータ・点火ネット・ノズルの点検（シーズンの初め）

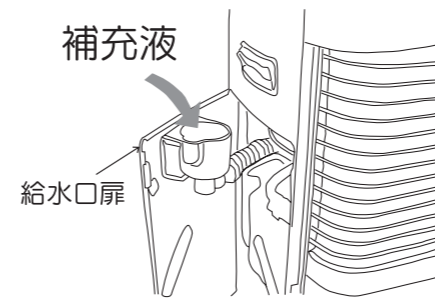
（お買い求めの販売店または、お近くのコロナサービスセンターに依頼してください。）

●点火ヒータや点火ネットにすすが付着すると赤熱が低下したり、油のひろがりが悪くなり、着火不良の原因になります。
●ノズルの先端にすすが付着すると異常燃焼になったり、着火不良や消火時間が長くなる原因になります。
点火ヒータ、点火ネット、ノズルの点検・交換はお買い求めの販売店または、お近くのコロナサービスセンターに依頼してください。

■フレームロッド（燃焼制御装置）の点検（適時）

（お買い求めの販売店または、お近くのコロナサービスセンターに依頼してください。）

●フレームロッドの先端にすすが付着したり、フレームロッドが変形すると誤作動の原因になります。
フレームロッドの点検・交換は、必ずお買い求めの販売店または、お近くのコロナサービスセンターに依頼してください。

■循環水の補給（適時）（UH-F7011PR）

シスターンタンク内の循環水は、少しずつ蒸発します。
ときどき水位を確認して循環水が不足している場合は、規定水位まで床暖房専用補充液を補給してください。
●給水口扉を開き、床暖房専用補充液を上限水位まで補給してください。

●コロナ純正床暖房用循環液は、凍結予防の他に床暖房に使用される機器（ストーブ・床暖パネル・配管部品など）の防錆効果を目的に作られた循環液です。循環液はすでに純水で適正な濃度に調合してありますので、試運転時にはこのままストーブに入れてください。
●他社銘柄の防錆剤、不凍液（特に車両用など）を使用したり、混合したりすると防錆効果が発揮されず機器の耐久性がそこなわれたり、粘度があわずポンプの性能が十分発揮されずに沸騰してしまうことがあります。
●循環液は、常温では引火しませんが、加熱されたストーブの上などにかかると着火することがありますので取り扱いには十分注意してください。
●循環液は３年を目安に入れかえてください。（開封した循環液も含む）
●循環液の凍結温度は、－２０℃に調合されています。

■温水配管の点検・交換の目安（シーズンの初め、適時）（UH-F7011PR）

●ストーブ内部や温水配管接続部分から水漏れがないことを確認してください。
●パックチューブは経年変化しますので手で少し曲げ、ひび割れがないか点検し、ひび割れがあるときは交換してください。交換の目安は３年に１度です。交換はお買い求めの販売店または、お近くのコロナサービスセンターに依頼してください。

■地震などの災害が発生したときの点検について

●地震などの災害が発生し、ストーブに振動や衝撃が加わったときは、運転前に必ず次の点検をおこなってください。
・給排気筒周りの外れ、漏れの確認
・灯油配管からの漏れの確認
●点検で異常が見つかった場合は、お買い求めの販売店または、お近くのコロナサービスセンターに修理を依頼してください。

9.定期点検

長期間ご使用になりますと、ストーブの点検が必要です。
２シーズンに１回程度、シーズン終了後などに点検を実施してください。点検のご相談は、お買い求めの販売店または、お近くのコロナサービスセンターまたは修理資格者〔(財)日本石油燃焼機器保守協会（TEL０３-３４９９-２９２８）でおこなう技術管理講習会修了者（石油機器技術管理士）など〕のいる店までお問い合わせください。

愛情点検	長年ご使用の密閉式石油ストーブの点検をぜひ！		ご使用中止
	こんな症状はありませんか	●油もれがする。 ●強いにおいがする。 ●運転中に異常な音がする。 ●その他の異常や故障がある。	故障や事故の防止のため必ずお買い求めの販売店または、お近くのコロナサービスセンターにご連絡ください。点検・修理についてのご費用など詳しいことはお買い求めの販売店または、お近くのコロナサービスセンターにご相談ください。

■次のような現象は故障ではありません。

●修理を依頼される前にもう一度お確かめください。

	現　　象	説　　明
点火時・消火時	初めて使用するときやシーズンの初めに煙やにおいがでる。	耐熱塗料やほこりが焼けるためです。 しばらく窓をあけて換気をしてください。
	すぐに点火しない。	予熱点火方式のため予熱時間が２分程度必要です。 （予熱時間は室温により多少変化します。）
	燃焼開始時や消火後に「ピチピチ」や「カンカン」という音がする。	本体内部が熱により膨張、収縮するためです。
	点火時にポンと音がする。	点火するときに発生する着火音で、異常ではありません。
	燃焼開始時に黄色い炎（赤火）が混じる。	異常ではありません。
燃焼時・その他	炎の一部が揺らぐ。青炎の中に黄色い炎（赤火）が混じる。	異常ではありません。
	給排気筒の先端から連続的に白煙が出る。	外気温が低くなると、排気ガス中に含まれている水分が凝結して水蒸気になるためで、異常燃焼による白煙ではありません。
	灯油ぎれの際に一瞬炎が大きくなって消火する。	異常ではありません。
	タイマー運転中に表示部の表示が暗い。	待機時の節電のためです。異常ではありません。
	「カチカチ」音がする。	電磁ポンプの運転音で異常ではありません。
	ガラス円筒が白くなる。	灯油中の成分がガラス円筒に付着するためです。異常ではありません。

●次のような現象のときは使用を中止し、油タンクの送油バルブを閉じてお買い求めの販売店または、お近くのコロナサービスセンターにご連絡ください。

現　　象	症　　状
点火時・燃焼時・消火時に「ボーン」という大きな音がした。	ストーブが損傷したりパッキンが飛散しているおそれがあります。
黒煙を出して燃えている。	燃焼が異常になっています。
置台に灯油が漏れている。	送油配管より灯油が漏れています。

■使用中に異常があったら次表により原因を調べて処置をしてください。

●原因のわからないときや処置のむずかしいときはお買い求めの販売店または、お近くのコロナサービスセンターにご連絡ください。　設定室温表示に自己診断モニタが表示されます。

※印部の現象・原因はUH-F7011PRのみ対象です。

原因＼現象	E1（途中消火）	E2（点火しない）	E3（対震作動）	E5（排気管抜け検知作動）	E7（停電過熱防止装置作動）	E9（停電）	E8（疑似火炎）	E0（機内サーミスタ作動）	F1（熱交サーモ作動）※	HE（不完全燃焼防止装置検知部異常）	HC点滅（不完全燃焼防止装置作動）	HH点滅（連続不完全燃焼通知機能作動）	HH点灯（再点火防止機能作動）	炎が大きくならない	黒煙を出して燃える	ガラス円筒がすすける	音をたてて燃える	灯油のにおいがする	爆発的な燃焼をする	電源が入らない	床暖パネルがあたたまらない※	沸とう音がする※	振動が大きい※	処置方法
電源プラグをコンセントに差し込んでいない																				●				コンセントを確実に差し込む
強い地震があった。または、ストーブに衝撃を与えた			●																					ストーブの周辺や給気ホース・排気管の外れ、油漏れなどの異常がないことを確認してから点火操作をする
送油バルブが閉まっている	●	●																						送油バルブを開く
定油面器の安全装置が作動している	●	●																						定油面器リセットレバーを左方向まで押す
ゴム製送油管に空気だまりがある	●	●												●										燃料切れの注意と空気抜きの方法（８ページ）を参照して空気抜きをする
定油面器に水、ごみがはいっている	●	●												●										お買い求めの販売店または、お近くのコロナサービスセンターに修理を依頼する
給排気筒の設置が基準通りでない。排気管が長すぎる															●	●								お買い求めの販売店または、お近くのコロナサービスセンターに修理を依頼する
対流用送風機のファンガードにほこりがたまった					●			●																ファンガードのほこりを掃除機などで掃除する
給排気筒の工事が不適当のため排気ガスを吸いこんでいる	●														●	●	●		●					お買い求めの販売店または、お近くのコロナサービスセンターに修理を依頼する
燃焼リングが変形している															●	●	●							お買い求めの販売店または、お近くのコロナサービスセンターに修理を依頼する
給排気筒トップの先端がおおわれている	●														●	●	●							おおっているものを取り除く
油漏れがある																		●						お買い求めの販売店または、お近くのコロナサービスセンターに修理を依頼する
給排気筒接続部が外れている。 排気管抜け検知用リード線端子接続部がゆるんでいる				●																				お買い求めの販売店または、お近くのコロナサービスセンターに修理を依頼する
フレームロッドにすすが多量に付着した	●						●																	お買い求めの販売店または、お近くのコロナサービスセンターに修理を依頼する
循環ポンプが故障している ※									●												●	●	●	お買い求めの販売店または、お近くのコロナサービスセンターに修理を依頼する
循環水が不足している ※									●												●			規定水位まで補充液を入れる
温水配管がつぶれている。温水ジョイントのコックが閉じている ※									●												●	●	●	温水配管のつぶれを直す。温水ジョイントのコックを開く
長時間停電があった（30秒以上）					●																			設定室温、時刻などをセットしてから点火操作をする
停電があった（1秒以上30秒未満）						●																		リセットしてから再度点火操作をする
不完全燃焼防止装置が故障している										●														お買い求めの販売店または、お近くのコロナサービスセンターに修理を依頼する
室内に排気ガスが漏れた											●	●	●											直ちに部屋の換気をする 「不完全燃焼防止装置」（２０ページ）の内容を点検する

11.部品交換のしかた

■部品交換のときの注意

ご注意 **不完全な修理、調整は危険ですので、部品の交換、調整が必要の場合には、お買い求めの販売店または、お近くのコロナサービスセンターもしくは修理資格者〔(財)日本石油燃焼機器保守協会で行う技術管理講習会修了者(石油機器技術管理士)など〕のいる販売店にご相談ください。**

部品交換はコロナ純正部品とご指定ください。

消耗・劣化しやすい部品(交換が必要な部品)

項目	内容
使用期間により交換が必要な部品	ポットバーナ・点火ヒータ・燃焼リング・スケルトン フレームロッド・点火ネット・ガラス円筒・各種パッキン 排気管接続用Oリング(P40 4種D)
環境により劣化しやすい部品	プリント配線板・燃焼用送風機・ガスセンサー・ゴム製送油管 対流用送風機
変質・不純灯油の使用により劣化しやすい部品	電磁ポンプ・定油面器・フレームロッド

12.保管(長期間使用しない場合)

シーズン終了時などの長期間使用しないときは、日常の点検・手入れの項(22~26ページ)を参照し、次の要領で保管してください。

1.電源プラグをコンセントから抜いてください。

● ⚠注意 長期間使用しないときは、電源プラグを抜いてください。

2.油タンクの送油バルブを閉じてください。

3.ファンガードの掃除をしてください。(23ページ参照)

4.定油面器内の灯油をすべて抜き取ってください。(23ページ参照)

5.本体のごみやほこりを取ってください。

●掃除機などでごみやほこりを取り除いてください。

6.本体をしめらせた布で汚れを落としてから、からぶきしてください。

7.ストーブは据付けたまま保管してください

●ファンガードにほこりなどがたまらないようカバーなどをかけてください。
●どうしても取り外して保管されるときは、ポリ袋をかぶせ、乾燥した場所に横倒しにしないようおしまいください。
●床暖の配管を接続したままで保管する場合は、上限水位まで補給しておいてください。(UH-F7011PR)
●ストーブ内の循環水を抜いて保管する場合は、エアー抜きバルブを開いておき、エアー抜きバルブ配管内も乾燥させてください。(UH-F7011PR)
●次シーズンに据付けるときには、必ずお買い求めの販売店または、お近くのコロナサービスセンターに依頼してください。

●取扱説明書は大切に保管してください。

13.仕　様

仕　様

※印部はUH-F7011PRのみ対象です。

型式の呼び		UH-F7011PR(基本型式 UH-F7010PR)		FF-6811PR(基本型式 FF-6810PR)	
種類		ポット式・屋内用・強制給排気形・強制対流形・床暖房用※			
点火方式		電気点火式			
使用燃料		灯油(JIS1号灯油)			
燃焼状態		最大	最小	最大	最小
燃料消費量	床暖房運転	8.03kW(0.780L/h)	2.26kW(0.220L/h)		
	ストーブ単独運転	7.90kW(0.768L/h)	2.26kW(0.220L/h)	7.90kW(0.768L/h)	2.26kW(0.220L/h)
発熱量	床暖房運転	28,890kJ/h	8,150kJ/h		
	ストーブ単独運転	28,450kJ/h	8,150kJ/h	28,450kJ/h	8,150kJ/h
熱効率	床暖房運転	86.6%	83.8%		
	ストーブ単独運転	86.0%	78.2%	86.0%	78.2%
暖房出力	床暖房運転	6.95kW 循環水量 150L/h(1回路時) 循環水量 180L/h(2回路時)〔別売品使用〕	1.90kW 循環水量 100L/h(1回路時・2回路時)		
	ストーブ単独運転	6.80kW	1.77kW	6.80kW	1.77kW
最大床暖房出力(床暖房運転)		最大燃焼時 1.51kW 循環水量 150L/h(1回路時) 循環水量 180L/h(2回路時)〔別売品使用〕			
サポートヒータ出力(サポートヒータ運転)		0.500kW 循環水量 100L/h			
標準適室	床暖房運転 温暖地	木造 29.5㎡(18畳) コンクリート 41.5㎡(25畳)			
	床暖房運転 寒冷地	木造 29.5㎡(18畳) コンクリート 48.0㎡(29畳)			
	ストーブ単独運転 温暖地	木造 29.5㎡(18畳) コンクリート 39.5㎡(24畳)		木造 29.5㎡(18畳) コンクリート 39.5㎡(24畳)	
	ストーブ単独運転 寒冷地	木造 29.5㎡(18畳) コンクリート 46.0㎡(28畳)		木造 29.5㎡(18畳) コンクリート 46.0㎡(28畳)	
本体水容量		2L(器具内蔵シスターン上限水位時)			
床暖房用熱交換器の最高使用圧力		シスターン大気開放			
外形寸法		高さ 615㎜ 幅 748㎜ 奥行 368(置台を含む)			
質量		34kg		28kg	
電源電圧及び周波数		100V 50/60Hz			
定格消費電力	床暖房運転	点火時 360/360W・最大燃焼時 53/58W 最大600/600W(点火初期に短時間発生)			
	ストーブ単独運転	点火時 340/340W・最大燃焼時 30/28W 最大600/600W(点火初期に短時間発生)		点火時 340/340W・最大燃焼時 31/30W 最大600/600W(点火初期に短時間発生)	
	サポートヒータ運転	最大運転時 625/625W			
待機時消費電力		2.8W			
床パネルの接続面積	床暖房運転	4.5~16.5㎡(3畳~10畳)(最大燃焼時)			
	サポートヒータ運転	4.5㎡(3畳)			
温水配管接続口		外径φ8㎜ニップル			
給排気筒の型式の呼び		QU4-4			
給排気筒の呼び径		D40			
給排気筒の壁貫通部の孔径		φ75㎜			
排気温度	床暖房運転	260℃以下			
	ストーブ単独運転	260℃以下		260℃以下	
電流ヒューズ		5A・10A			
安全装置		対震自動消火装置・点火安全装置・燃焼制御装置・不完全燃焼防止装置・停電安全装置・過熱防止装置			
その他の装置		再点火安全装置・排気管抜け検知装置・過電流防止装置・燃焼用送風機異常検出装置 機内サーミスタ・※サポートヒータ過熱防止装置・※循環水過昇防止装置			
付属品		置台1個・※パックチューブ2.5m・※ホースバンド2個・本体固定金具2個・給排気筒セット1組 スリーブ1個・遮断板1個・ゴム製送油管締付バンド2個・取扱説明書・工事説明書・所有者票			

備考)・標準適室は、社団法人・日本ガス石油機器工業会の算定基準によります。

プリント配線板 端子配置図

注）┌┐印端子部は UH-F7011PRのみ対象です。

14.アフターサービス

■保証について

●このコロナ密閉式石油ストーブには保証書がついています。
　保証書は、必ず「お買い上げ日・販売店名」などの記入をお確かめのうえ、販売店からお受け取りになり大切に保管してください。
●保証期間はお買い上げ日から1年間です。
●次のような原因による故障および事故につきましては、保証の対象になりませんので注意してください。
・変質灯油や不純灯油など、また灯油以外の燃料使用による故障や事故。
・誤った使用方法による故障や事故。

■修理を依頼されるとき

●「故障・異常の見分け方と処置方法」(２７～２８ページ)の項に従ってお調べください。直らないときは、ご使用を中止し、必ず電源プラグを抜いてから、お買い求めの販売店または、お近くのコロナサービスセンターにご連絡ください。
●ご連絡いただきたい内容は次の通りです。
　① 品名　② 型式の呼び　③ お買い上げ日　④ 故障状況(できるだけ具体的に)　⑤ ご住所･ご氏名･お電話番号
●修理に際しては､保証書をご提示ください｡保証期間中であれば保証書の規定に従って無料修理させていただきます｡
●保証期間が過ぎているときは､修理すれば使用できる製品については､ご希望により有料で修理いたします｡
●ご不明な点や修理に関するご相談は、お買い求めの販売店または、お近くのコロナサービスセンターにお問い合わせください。

■保証期間が過ぎているときは
●お買い求めの販売店または、お近くのコロナサービスセンターにご相談ください。修理によって使用できる製品についてはお客様のご要望により有料修理いたします。

■補修用性能部品の保有期間
●石油ストーブの補修用性能部品（機能を維持するために必要な部品）の保有期間は製造打ち切り後７年です。

■修理に出されるときは
●輸送時や運搬時に定油面器内に灯油が残ったままですと、傾きや振動で灯油がこぼれることがありますので、必ず抜き取ってください。

15.据付け・移設

据付け・移設工事は販売店に依頼する

据付けや移設工事は販売店または、据付業者に依頼し、お客様ご自身ではおこなわないでください。

据付け場所の選定及び標準据付け例

据付けについては、火災予防条例、電気設備に関する技術基準など法令の基準があります。工事説明書の「特に注意していただきたいこと（安全のために必ずお守りください）」をお読みになり、販売店または据付業者とよくご相談してください。また、「標準据付け例」については、下図を参照してください。

■標準据付け例

ストーブの据付けは下図を満足させる位置に取りつけてください。

●遮熱板を取り付けない場合は、Ａ寸法を30㎝以上にしてください。
●点検・手入れのため、Ｂ寸法を30㎝以上にしてください。

●テレビやラジオから1m以上離してください。
●側方障害物は、両側にあってもよいが給排気筒と障害物、可燃物との距離は45㎝以上とってください。
●前方に塀や建物がある場合は給排気筒先端と前方障害物との距離は60㎝以上離し、かつ上方および両側方に気流を阻止する障害物がないようにしてください。
●給排気筒下面は地面から20㎝以上離すようにしてください。なお積雪地域では、給排気筒先端が雪でふさがるおそれのない高さを確保してください。

●木造の建物で壁にメタルラス張り、ワイヤラス張り、または金属板張りをしてある場所に給排気筒を通すときは、それらの金属部に接しないように電気的絶縁をしてください。
●壁に穴をあける場合、壁の内部にある電気配線・ガス・水道の配管にあたらない場所を選んでください。

給排気筒を延長する場合の注意

●給排気筒を延長する場合は、３ｍ３曲がり以下で取り付けられる場所を選定してください。

積雪地区における注意

●積雪の多い地方では、積雪時に給排気筒が雪でふさがれないような取付場所を選定してください。また、風がよどむような場所では、排気ガスを再度吸い込んで不完全燃焼を起こすことがあります。

据付け後の確認

据付けが終わりましたら、もう一度、工事説明書の「特に注意していただきたいこと（安全のために必ずお守りください）」をお読みになり、工事説明書に記載されているとおり据付けられているかどうかを確認してください。

試 運 転

試運転は販売店または据付業者とご一緒に必ずおこなってください。

■運転準備

● ⚠注意 **電源プラグはコンセントに根元まで確実に差し込んでください。**

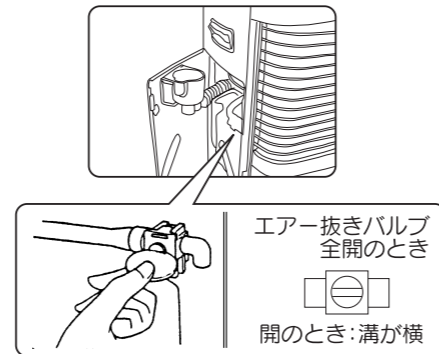
●油タンクに給油し、送油経路の空気抜きをしてください。（8ページ）

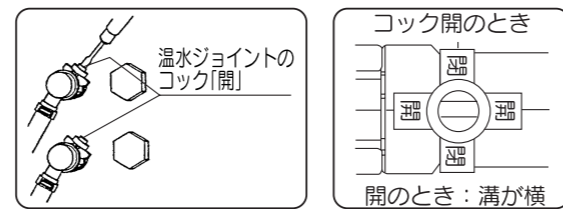
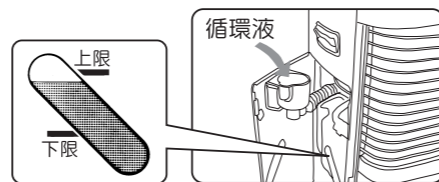
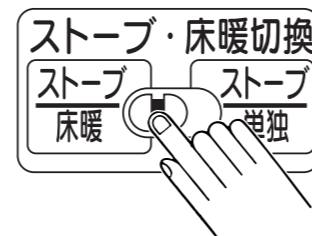
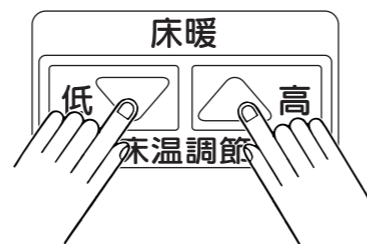
●送油経路やストーブより油漏れがないか確認してください。

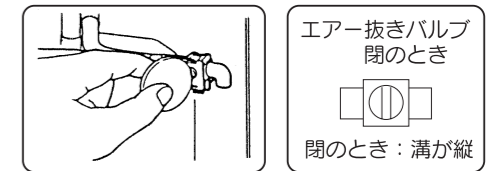
●配管途中にバルブなどがある場合には、全開にしてください。

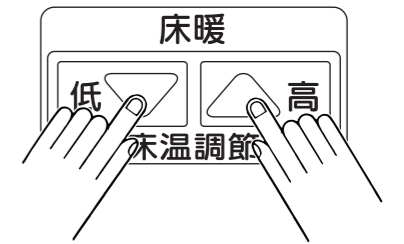
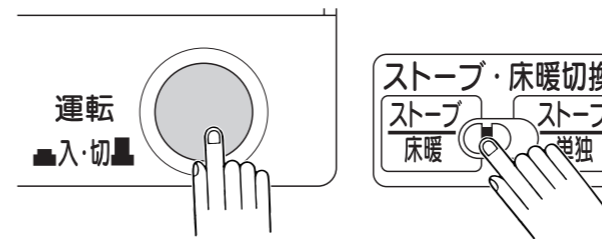
●定油面器をセットしてください。（8ページ）

■循環液の給水方法 UH-F7011PR

1．給水前にエアー抜きバルブが全開になっていることを確認してください。
（工場出荷時には全開になっています。）

2．両方の温水ジョイントのコックを「開」にしてください。

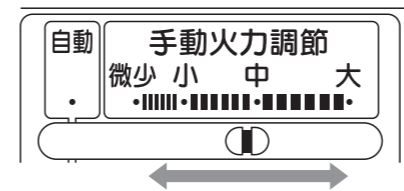
●配管途中にバルブがある場合は、バルブを全開にしてください。
●水漏れがあった場合は、循環ポンプを停止させてください。床暖切換スイッチを「ストーブ単独」に切り換えることにより停止させることができます。

3．シスターンタンクの上限水位まで循環液を入れてください。

4．操作部の床暖切換スイッチを「ストーブ床暖」に合わせてください。

5．操作部の床温調節ボタン「高」「低」を5秒間押し続けてください。
●循環ポンプが運転を開始します。
●表示部の設定床温表示ランプが点滅します。

6．シスターンタンクの水位が下がるので上限水位まで循環液を給水してください。
（シスターンタンクの水位が下がらなくなるまで給水を続けてください。）

7．シスターンタンクの水位が下がらなくなったらエアー抜きバルブを必ず「閉」にしてください。

8．温水配管路に水漏れのないことを確認してください。

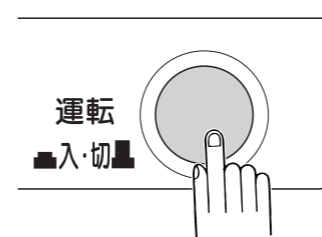
9．水漏れのないことを確認したら給水は完了です。
●操作部の床温調節ボタン「高」「低」を同時に押してください。
循環ポンプが停止します。
●表示部の設定床温表示が消灯します。

■運転 ※印はUH-F7011PRのみ対象です。

※1．床暖切換スイッチを「ストーブ床暖」にセットしてください。

2．運転スイッチを押して「入」にしてください。
●約3～4分間の予備燃焼が終わると本燃焼になります。

※3．温水配管経路に水漏れのないことを確認してください。

※●運転の途中で温水配管経路に水漏れがあった場合
①操作部の床暖切換スイッチを「ストーブ単独」に切り換えて循環ポンプを停止させてください。
②運転スイッチを押して「切」にしてストーブの運転を停止してください。

4．異常がなければ、火力調節つまみを「微少」～「大」に設定してください。
●燃焼中の炎に黄色い炎（赤火）が混じったり、かたよったり、上下変動することがありますが、異常ではありません。

※5．床暖パネルが暖かくなることを確認してください。
●正常運転の目安として「故障・異常の見分け方と処置方法」（27～28ページ）のような現象のないことを確認してください。

■消火の手順 ※印はUH-F7011PRのみ対象です。

●運転スイッチを押して「切」にしてください。
運転ランプが消灯します。
燃焼室が冷却すると約10分後に燃焼用送風機、対流用送風機、※循環ポンプが停止します。

お願い

●長期間の保管後、再び設置する場合も「試運転」の手順に従い、試運転をおこなってください。

初めてお使いになるときの注意

●初めてお使いになるときは、耐熱塗料などが焼き付くまで煙と臭いが出ます。このような場合は、お部屋の窓（給排気筒トップ取付け場所より離れた所）を少し開け、半日から1日程度「大火力」運転をしてください。
また、小鳥や小動物などに影響する場合が考えられますので、この間は部屋に入れないでください。

お客様ご相談窓口一覧表

修理サービスや製品についてのご相談は機種名をご確認の上、お買いあげの販売店または下記のご相談窓口にご依頼ください。

ご転居やご贈答品などでお困りの場合は、下記のお近くの窓口にご相談ください。

名称、所在地、電話番号は、変更する場合がありますのでご了承ください。

●アフターサービスのお問い合わせは下記へどうぞ

コロナサービスセンター

0120-919-302
（修理受付専用ダイヤル）

FAX 0120-919-322

携帯電話・PHS等からは最寄のサービスセンターへ直接おかけください。

地区	窓口	所在地	〒	TEL	FAX
北海道地区	札幌支店	札幌市白石区平和通16丁目南1-19	〒003-0028	TEL(011)864−0440(代表)	FAX(011)863−3154
	札幌サービスセンター	札幌市白石区米里3条2丁目6-25	〒003-0873	TEL(011)879−2121(代表)	FAX(011)871−2400
	函館営業所	函館市西桔梗町21-2	〒041-0824	TEL(0138)48−6070(代表)	FAX(0138)48−6080
	旭川営業所	旭川市東旭川南1条2丁目2-5	〒078-8261	TEL(0166)37−2330(代表)	FAX(0166)37−2338
	帯広営業所	帯広市西18条北1丁目17-1	〒080-0048	TEL(0155)35−7518(代表)	FAX(0155)35−7510
	釧路営業所	釧路市花園町4-17	〒085-0038	TEL(0154)24−4191(代表)	FAX(0154)24−0451
	北見営業所	北見市美芳町9-1-30	〒090-0064	TEL(0157)26−2103(代表)	FAX(0157)26−2107
東北地区	青森支店	青森市古館1丁目12-38	〒030-0946	TEL(017)742−8255(代表)	FAX(017)742−8275
	青森サービスセンター	青森市古館1丁目12-38	〒030-0946	TEL(017)743−2971(代表)	FAX(017)743−1118
	秋田営業所	秋田市泉中央4丁目4-18	〒010-0917	TEL(018)864−5671(代表)	FAX(018)864−8468
	秋田サービスセンター	秋田市外旭川三千刈109-1	〒010-0802	TEL(018)864−5219(代表)	FAX(018)864−5760
	八戸営業所	八戸市売市4丁目4-7	〒031-0073	TEL(0178)24−5289(代表)	FAX(0178)45−4290
	八戸サービスセンター	八戸市売市4丁目4-7	〒031-0073	TEL(0178)47−6609(代表)	FAX(0178)71−1344
	弘前営業所	弘前市田園1-2-1	〒036-8086	TEL(0172)28−3910(代表)	FAX(0172)28−0191
	弘前サービスセンター	弘前市田園1-2-1	〒036-8086	TEL(0172)26−4770(代表)	FAX(0172)29−1133
	盛岡営業所	盛岡市門2-1-42	〒020-0823	TEL(019)622−4791(代表)	FAX(019)622−5244
	盛岡サービスセンター	盛岡市門2-1-42	〒020-0823	TEL(019)604−0281(代表)	FAX(019)604−0283
	水沢営業所	奥州市水沢区水沢工業団地4丁目79	〒023-0002	TEL(0197)22−4155(代表)	FAX(0197)22−4452
	仙台支店	仙台市宮城野区日ノ出町1-7-32	〒983-0035	TEL(022)235−3181(代表)	FAX(022)236−8810
	仙台サービスセンター	仙台市宮城野区日ノ出町1-7-31	〒983-0035	TEL(022)783−1791(代表)	FAX(022)783−1792
	郡山営業所	郡山市亀田1-51-9	〒963-8033	TEL(024)938−2240(代表)	FAX(024)938−3021
	山形営業所	山形市東青田3-6-28	〒990-2423	TEL(023)642−3255(代表)	FAX(023)642−3254
	庄内営業所	酒田市錦町1-183-1	〒998-0103	TEL(0234)31−0571(代表)	FAX(0234)31−0581
関東地区	首都圏支店	東京都北区豊島8-4-8	〒114-0003	TEL(03)3927−1151(代表)	FAX(03)3927−1160
	首都圏サービスセンター	東京都北区豊島8-4-8	〒114-0003	TEL(03)3911−1131(代表)	FAX(03)3927−1130
	東京営業所	東京都北区豊島8-4-8	〒114-0003	TEL(03)3927−1152(代表)	FAX(03)3927−1160
	立川営業所	立川市高松町1-22-3	〒190-0011	TEL(042)519−5271(代表)	FAX(042)528−2382
	千葉営業所	松戸市高塚新田95-5	〒270-2222	TEL(047)312−8330(代表)	FAX(047)312−8338
	横浜営業所	横浜市戸塚区原宿4丁目7-13	〒245-0063	TEL(045)852−4008(代表)	FAX(045)852−5540
	甲府営業所	山梨県中巨摩郡昭和町西条2491-2	〒409-3866	TEL(055)268−1567(代表)	FAX(055)268−1569
	北関東支店	さいたま市北区宮原町1-674-2	〒331-0812	TEL(048)651−1722(代表)	FAX(048)651−6370
	さいたま営業所	さいたま市北区宮原町1-674-2	〒331-0812	TEL(048)651−1231(代表)	FAX(048)651−6370
	高崎営業所	高崎市問屋町西1-3-22	〒370-0007	TEL(027)361−4806(代表)	FAX(027)361−9139
	宇都宮営業所	宇都宮市簗瀬町2313	〒321-0933	TEL(028)632−5105(代表)	FAX(028)632−5205
	太田営業所	太田市高林東町2375	〒373-0825	TEL(0276)38−6571(代表)	FAX(0276)38−5508
	水戸営業所	水戸市笠原町653-2	〒310-0852	TEL(029)241−2172(代表)	FAX(029)241−4268
	つくば営業所	つくば市谷田部6788-19	〒305-0861	TEL(029)839−5325(代表)	FAX(029)836−1913
信越・北陸地区	新潟支店	三条市曲渕3-2-15	〒955-0864	TEL(0256)32−2126(代表)	FAX(0256)35−8519
	三条サービスセンター	三条市曲渕3-2-15	〒955-0864	TEL(0256)32−2129(代表)	FAX(0256)32−2137
	新潟東営業所	新潟市東区江南1-6-41	〒950-0855	TEL(025)286−9131(代表)	FAX(025)286−3313
	長野営業所	長野市大豆島5312	〒381-0022	TEL(026)221−5111(代表)	FAX(026)221−0039
	松本営業所	松本市笹賀大久保原7852	〒399-0033	TEL(0263)26−0051(代表)	FAX(0263)25−9961
	金沢支店	金沢市駅西新町1-1-25	〒920-0027	TEL(076)260−0567(代表)	FAX(076)260−0775
	金沢サービスセンター	金沢市駅西新町1-1-25	〒920-0027	TEL(076)260−0038(代表)	FAX(076)260−0738
	富山営業所	富山市田中町2-3-15	〒930-0985	TEL(076)444−0567(代表)	FAX(076)444−0611
	福井営業所	福井市和田東1-607	〒918-8237	TEL(0776)23−0567(代表)	FAX(0776)23−0580
東海地区	名古屋支店	名古屋市熱田区桜田町16-11	〒456-0004	TEL(052)746−6600(代表)	FAX(052)884−6551
	名古屋サービスセンター	名古屋市熱田区桜田町16-11	〒456-0004	TEL(052)746−6603(代表)	FAX(052)884−6554
	静岡営業所	静岡市駿河区高松2-15-30	〒422-8034	TEL(054)238−0005(代表)	FAX(054)238−0006
	岐阜営業所	岐阜市六条南2-7-8	〒500-8358	TEL(058)268−7555(代表)	FAX(058)268−7550
	津営業所	津市高茶屋3-29-38	〒514-0819	TEL(059)234−8471(代表)	FAX(059)234−8472
	沼津営業所	沼津市西椎路888-1	〒410-0303	TEL(055)968−6210(代表)	FAX(055)968−6212
近畿・四国地区	大阪支店	吹田市南金田1-8-47	〒564-0044	TEL(06)6380−2111(代表)	FAX(06)6386−7262
	大阪サービスセンター	吹田市南金田1-8-47	〒564-0044	TEL(06)6386−5670(代表)	FAX(06)6386−5588
	高松営業所	高松市今里町1-8-5	〒760-0078	TEL(087)835−1711(代表)	FAX(087)835−0160
	京都営業所	京都市伏見区竹田段ノ川原町70-1	〒612-8414	TEL(075)643−2002(代表)	FAX(075)643−0870
	神戸営業所	神戸市西区枝吉5-132	〒651-2133	TEL(078)922−2431(代表)	FAX(078)922−2438
	彦根営業所	彦根市正法寺町南出78	〒522-0024	TEL(0749)24−6239(代表)	FAX(0749)26−2116
	福知山営業所	福知山市荒河東町68	〒620-0061	TEL(0773)22−0827(代表)	FAX(0773)23−7592
	松山営業所	松山市西垣生町780-3	〒791-8044	TEL(089)968−7351(代表)	FAX(089)968−7353
中国地区	広島支店	広島市安佐南区祇園3-27-20	〒731-0138	TEL(082)871−3310(代表)	FAX(082)871−3306
	広島サービスセンター	広島市安佐南区祇園3-27-20	〒731-0138	TEL(082)871−3315(代表)	FAX(082)871−0272
	岡山営業所	岡山市北区辰巳35-103	〒700-0976	TEL(086)243−7751(代表)	FAX(086)243−7191
	米子営業所	米子市目久美町235-1	〒683-0035	TEL(0859)33−8157(代表)	FAX(0859)23−0709
	徳山営業所	周南市徳山字一ノ井手5631-4	〒745-0882	TEL(0834)22−5567(代表)	FAX(0834)22−5589
九州地区	福岡支店	福岡市博多区東比恵2-2-40	〒812-0007	TEL(092)474−5771(代表)	FAX(092)474−5775
	福岡サービスセンター	福岡市博多区東比恵2-2-40	〒812-0007	TEL(092)474−6001(代表)	FAX(092)474−6414
	北九州営業所	北九州市小倉北区愛宕2-6-4	〒803-0828	TEL(093)592−8611(代表)	FAX(093)592−8666
	鹿児島営業所	鹿児島市田上7-16-5	〒890-0034	TEL(099)281−1321(代表)	FAX(099)281−1252
	熊本営業所	熊本市尾ノ上1-11-12	〒862-0913	TEL(096)367−7361(代表)	FAX(096)369−6323
	長崎営業所	長崎県西彼杵郡時津町左底郷浜田74-1	〒851-2106	TEL(095)882−7710(代表)	FAX(095)882−7767
	宮崎営業所	宮崎市霧島3-59-2	〒880-0032	TEL(0985)29−1680(代表)	FAX(0985)25−0685
	大分営業所	大分市三佐1-19-7	〒870-0108	TEL(097)523−5161(代表)	FAX(097)523−5162
沖縄地区	沖縄営業所	宜野湾市宇地泊738 シーサイド・パーク102	〒901-2227	TEL(098)897−5677(代表)	FAX(098)897−5679

12041102

本社・工場	三条市東新保7-7	〒955-8510	TEL(0256)32−2111(大代表)
柏崎工場	柏崎市宝町2-58	〒945-0817	TEL(0257)23−5175(代表)
長岡工場	長岡市下条町倉ノ浦1069	〒940-1146	TEL(0258)22−2121(代表)

株式会社

ホームページ　http://www.corona.co.jp/

205WA0852- 0 1 2 3Ⓙ